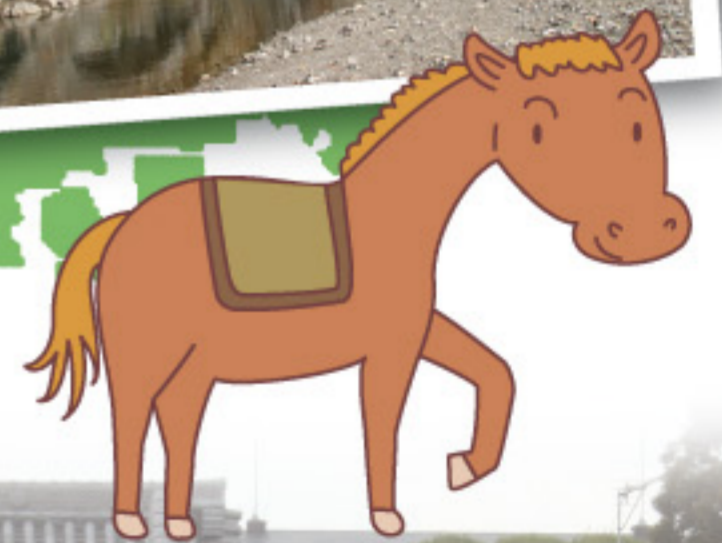


中播磨地域ビジョン

つなぐつながる銀の馬車道



平成23年10月
中播磨地域ビジョン委員会 兵庫県中播磨県民局

目 次

I 中播磨地域ビジョン 点検・見直しの趣旨	1
II 中播磨地域ビジョン策定（平成13年2月）後の時代潮流と地域の変化	
1 予想を上回る人口構造の変化—本格的な人口減少社会の到来—	3
2 県民局の分割再編、市町合併等に伴う地域構造の変化と南北交流必要性の明確化	4
3 中播磨地域の変化	5
III 中播磨地域ビジョンの推進状況	
1 地域ビジョンの“6つの夢”の推進状況	8
2 県民行動プログラムの推進状況	9
3 地域行政推進プログラムの推進状況	12
IV 新たな中播磨地域の“夢” ～改訂版中播磨地域ビジョン～	
1 再構築に向けて必要とされる視点（意見総括）	15
2 基本姿勢について	16
3 地域の夢と目標像	17
V 新たな“夢”の実現に向けて	
1 県民行動プログラム	30
2 地域経営プログラム	35
3 “地域力指標”に基づく継続的なビジョンのフォローアップ	36
< 参考資料 >	
【資料1】中播磨地域のすがた	39
【資料2】ビジョン委員会委員アンケートの結果概要	44
【資料3】県民のみなさんからいただいたご意見	45
【資料4】県民意識調査（中播磨地域分）の結果一覧	57
【資料5】中播磨地域経営プログラム体系（平成23年版）	62
【資料6】中播磨地域ビジョン点検・見直しの経緯	64
【資料7】中播磨地域ビジョン検討委員会	65

I 中播磨地域ビジョン 点検・見直しの趣旨

地域住民が主体となって、地域がめざす夢や将来像とその取り組み方向を示した「中播磨地域ビジョン」（平成13年2月策定。以下、「現行地域ビジョン」という。）の策定から約10年が経過しました。この間、少子化、高齢化、人口の偏在など人口構造の変化、経済のグローバル化など、時代の潮流はめまぐるしく変化してきました。

そこで、中播磨地域ビジョン委員会では、現行地域ビジョンの想定年次の平成27年（2015年）まで5年となる平成22年（2010年）を節目として、時代潮流や地域の変化を踏まえ、目指すべき将来の地域像を点検・見直し、ビジョンの実現に向けた、取組方向の具体化を行いました。

現行地域ビジョンの点検・見直しにあたっては、30年後にあたる2040（平成52年）の中播磨地域の姿を展望し、理想とする地域の姿を実現するために必要となる基本姿勢、めざすべき中播磨地域の将来像、目標像を確認しました。

また、現行地域ビジョンが西播磨地域（相生市・たつの市・赤穂市・宍粟市・太子町・上郡町・佐用町）と共有のビジョンであることから、中播磨地域1市3町（姫路市・福崎町・市川町・神河町）の地域特性に焦点を絞り、「中播磨地域」にふさわしい地域特性豊かなビジョンとなるよう、下記のプロセスを重視しながら点検・見直し作業を行いました。

区分	現行ビジョン	改訂ビジョン
策定年月	2001.2 (H13.2)	2011.9 (H23.9)
想定年次	2015 (H27)	2020 (H32)
展望	2030 (H42)	2040 (H52)

(1) できるだけ多くの地域の“夢”を反映

一人でも多くの県民の「中播磨地域のめざすべき将来像」をビジョンに反映させていくため、「地域夢会議」や「中播磨地域推進フォーラム」のように、直接的な意見交換の場を数多く設けるとともに、アンケートや意識調査を実施しました。

特に、今後実際にビジョンの推進を先導的に担っていくことになる子どもたちや若い人たちの意見を反映できるよう、若者の意見提案や発表の機会を設け、点検・見直し作業を実施しました。

(2) 県民主導と県民局との連携した取り組みを展開

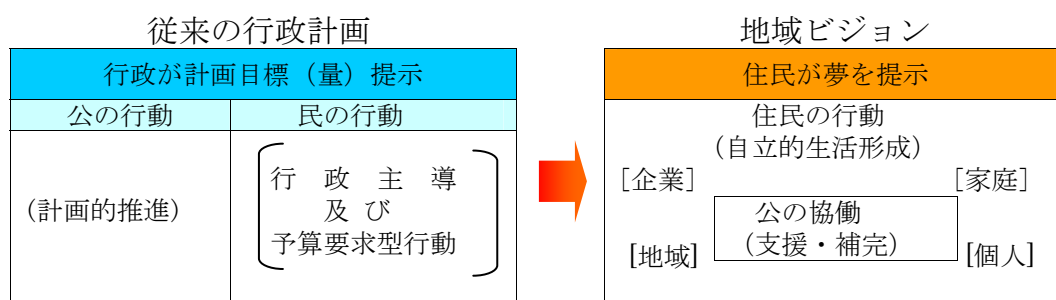
「中播磨地域ビジョン」は中播磨地域の“夢”の実現に向けた「みちしるべ」としての役割を担うことになるため、県民自らが主体となって描くことにより、一人ひとりが夢の実現に向けて行動する発展的な取組へとつながってゆきます。

したがって、時代潮流の変化の分析、地域の課題の抽出、中播磨地域ビジョン委員会の取組の評価を的確に行うにあたっては、地域ビジョンの基本姿勢である、「参画と協働」に基づき、従来の目標達成のための行政主導の「計画」ではなく、住民自らが地域の夢を描き、実現に向けて、自分たちで何ができ、何をしていくかの知恵を結集し、地域の将来像を描くよう、中播磨県民局と連携しながら点検・見直し作業を行いました。

【参 考】

現行地域ビジョンの考え方（「西播磨地域ビジョン」（平成13年2月）より抜粋）

行政がすべてをリードする時代は終わろうとしています。これからは、多様な価値観を共有しつつも、個人も、家庭も、地域も、企業も、行政も、ともに手を携えて、共有、共感できる地域の夢に向かって取り組んでいく必要があります。ビジョン実現の主役は、いま行政から住民にバトンタッチされようとしているのです。



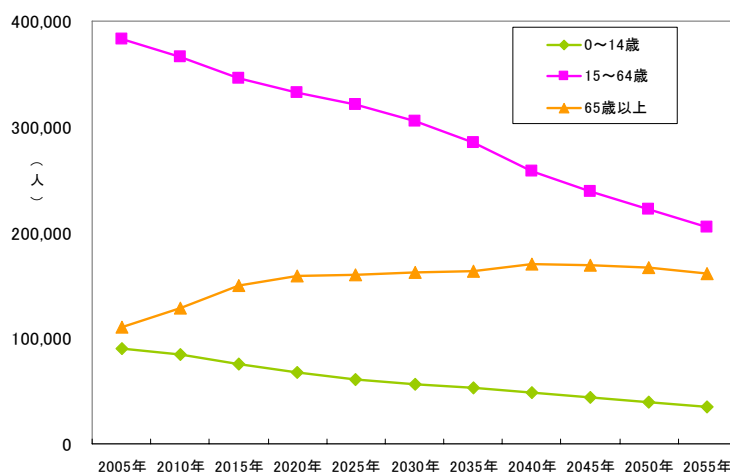
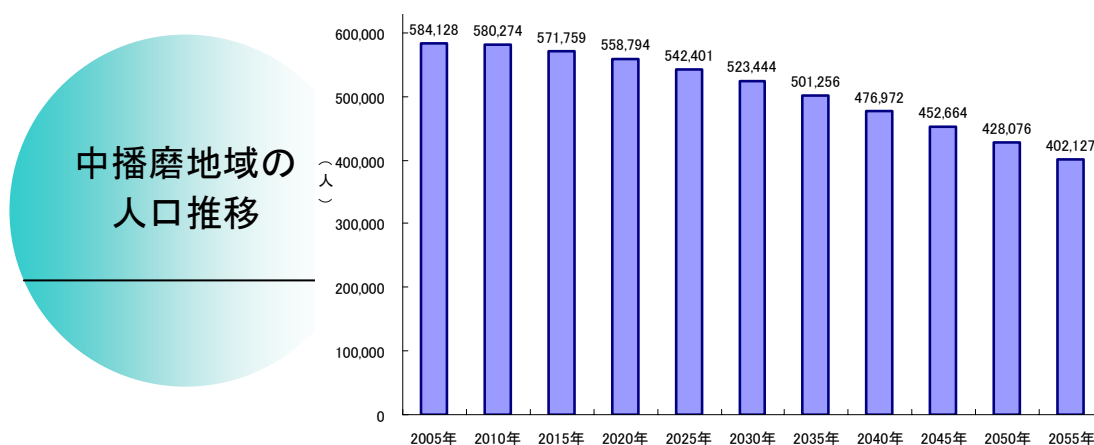
II 中播磨地域ビジョン策定（平成13年2月）後の時代潮流と地域の変化

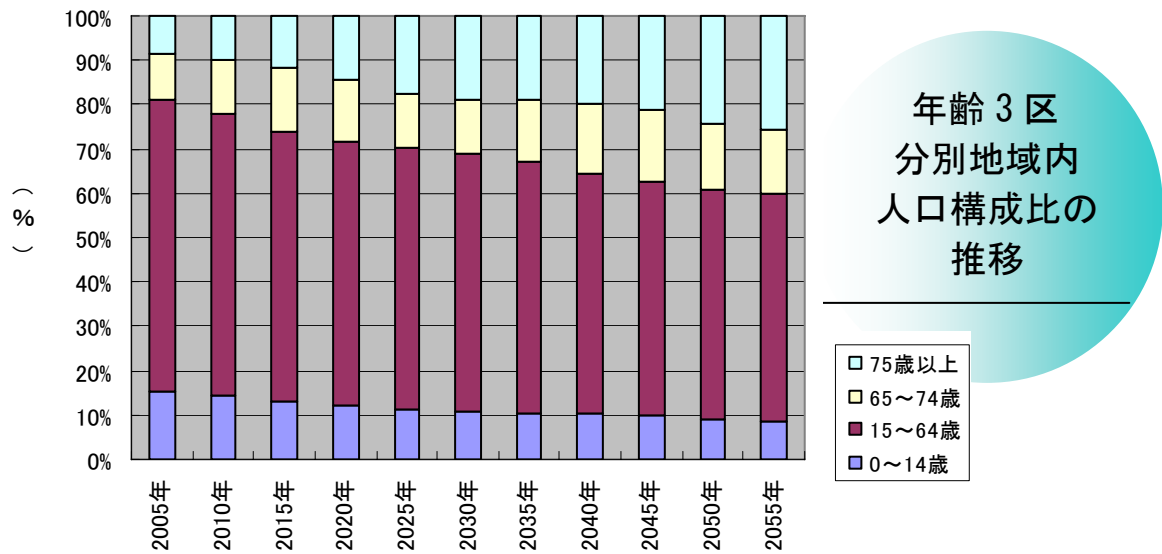
1 予想を上回る人口構造の変化—本格的な人口減少社会の到来

現行ビジョン策定時も、既に人口減少社会化の予測はされていましたが、その後、予想を上回るスピードで少子化・高齢化が進展し、人口減少がより急激に進む可能性があることが明らかになってきました。

中播磨地域では、ほぼ現在の推計値である58万人をピークに、今後人口は下降することが予測され、2055年頃には40万人程度になる可能性があります。

戦後はじめてとなる人口減少社会に本格的に突入してゆくにあたり、すでに明らかになりつつある人口構造の変化に伴う経済の縮小、ライフスタイルの変化に伴う家族や地域のつながりの希薄化などの課題に対処しつつ、経済のグローバル化や地域のボーダレス化の進展、地球温暖化や資源の枯渇など環境問題の深刻化など、時代の変化の流れを的確にとらえつつ、地域の将来像を描いてゆく必要があります。





※いずれも兵庫県「時代潮流の調査研究」(H21)より抜粋。

2 県民局の分割再編、市町合併等に伴う地域構造の変化と南北交流の必要性の明確化

現行ビジョン策定後の平成13年4月に、地域間の総合調整機能を強化し、地域課題をすみやかに解決できる現地解決型事務所を実現してゆくため、従来の西播磨県民局が中播磨県民局（姫路市・神河町・市川町・福崎町を所管）と西播磨県民局（相生市・たつの市・赤穂市・宍粟市・太子町・上郡町・佐用町を所管）に分割されました。この結果、中播磨地域は自然豊かな北部地域と都市型の南部地域から構成される南北に長い地域となり、両地域の特性を活かしつつ地域間をつないでゆく南北の交流により元気な中播磨づくりをすすめてゆくことが重要な課題になりました。

中播磨県民局誕生後も、現行地域ビジョンは中播磨・西播磨両県民局の区域内の地域共有のものとして、両地域共通のビジョンのもとで様々な活動が展開されてきました。しかし、ひとつひとつの地域の個性に応じたきめ細かな地域づくりを推進してゆくためには、それぞれの地域特性に応じた取組を展開してゆく必要があることから、中播磨地域の特性に応じた地域の将来像をより明確にしていく必要があるという機運が高まりました。

3 中播磨地域の変化

人々の意識やライフスタイルの変化、経済のグローバル化に伴う経済状況の変化に伴い、私たちの身の回りを取り巻く身近な家族や地域の結びつきの弱まり等、様々な変化が地域には起こってきています。

その一方で、中播磨地域の資源である、人の輪や地域の力を有機的に繋げることにより、元気な中播磨をつくっていかうとする従来になく取組等もはじまりつつあります。

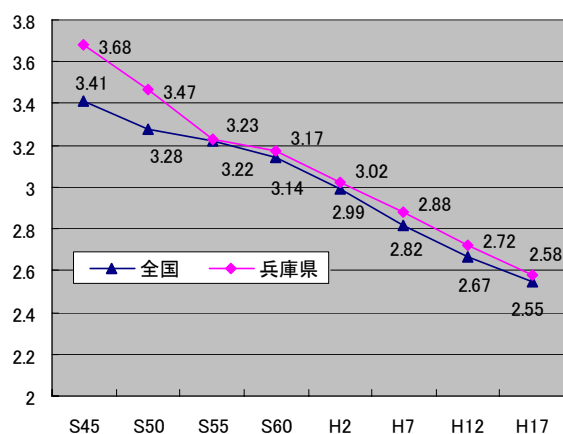
(1) 家族の変化に伴う“人”のつながりの希薄化

社会を構成する基本単位である家庭の規模が年々縮小してきています。

高度成長期には、主に姫路市等を中心とする都市部に流入してきた階層により形成された夫婦と未婚の子どもの世帯が大きな割合を占めていましたが、今日では、単独世帯や夫婦のみの世帯が増加し、一世帯当たりの平均人員は30年前と比べて7割強になっています。(S50年：3.47人→H17年：2.58人)。

このような世帯の縮小化の中で、介護、育児、家事などの従来家庭や地域が担ってきた機能が、市場経済や国・自治体の公共サービスで提供されるなど、家庭や地域の機能の外部化が進み、家庭のつながりや絆の結びつきの弱まりが指摘されています。

【世帯あたりの平均人員の推移】



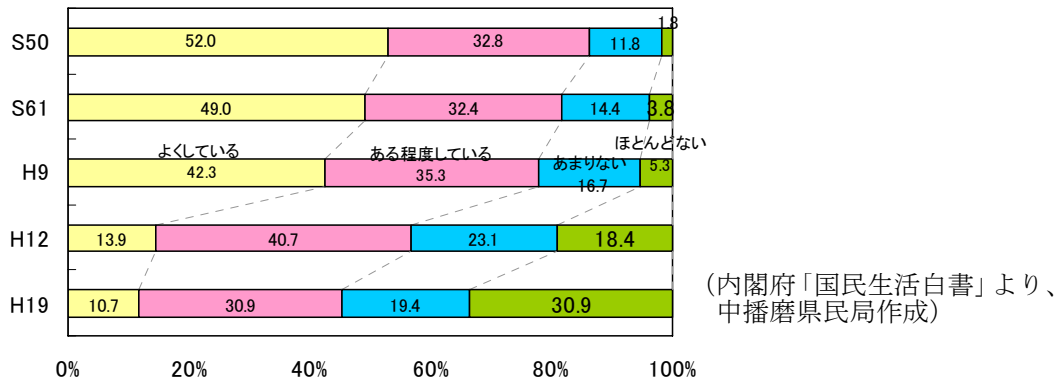
(総務省「国勢調査」より、中播磨県民局作成)

(2) 地域の結びつきの変化

家庭や地域の機能の外部化に伴い、生活の利便性も向上しました。しかしながら、従来、地域内で相互扶助により成り立ってきたことが、金銭の授受により外部化されるようになった結果、家庭や地域社会との関わりの必然性が薄れてきています。

内閣府が実施する「近所づきあいに関する意識の変化」の調査では、昭和 50 年には、約 85%の人々が近所づきあいをしていると答えていましたが、平成 19 年の調査では、つきあいが無い人の割合が 50%を越えており、地域におけるつきあいの希薄化が浮き彫りになってきています。

【近所づきあいの程度の推移】



(3) シンボルプロジェクト「銀の馬車道」の推進

中播磨地域の南北交流を促進し、連携を通じて地域の魅力をさらに高めるために、中播磨地域ビジョン委員会では、明治時代以降中播磨地域の人、もの、情報を結ぶ南北交流の基幹軸として、我が国の近代化を支えた歴史的、文化的資産である「銀の馬車道」の活用をビジョンの推進におけるシンボルプロジェクトとして定め、連携と交流の地域づくりをすすめてきました。

平成 18 年 6 月には、プロジェクトの基本的姿勢や実現方策を示す“「銀の馬車道」活用推進計画”が策定されました。さらに、平成 19 年 4 月には、同プロジェクトを幅広く展開していく推進母体として、県や関係市町、旅行社、マスコミなどの民間企業や観光協会・商工会など、幅広い地域の人々から構成される「銀の馬車道ネットワーク協議会」が誕生し、多彩な交流促進、ツーリズムの振興など住民を主体とする様々な取り組みが展開され、元気な中播磨づくりが進められました。

(4) JR 姫路駅周辺整備の推進

播磨地域の鉄道の玄関口である JR 姫路駅付近における鉄道高架化を中心に、姫路駅周辺の再整備がすすみました。JR 山陽本線等姫路駅付近連続立体交差事業は、平成 20 年 12 月の姫新線・播但線の高架への切替えが完了し、周辺道路利用者の利便性向上に向け、南北道路の整備が進められています。

このように、JR 姫路駅が播磨の“顔”として都市拠点形成の中心機能を果たしていく重要性がさらに高まりつつあります。

(5) 地域特性を活かした大型イベントの実施等に伴う 地域資源のクローズアップ

- ① 姫路菓子博の開催（平成20年4～5月）
（当初目標大きく上回る92万人が来場。中播磨地域の特産品、観光、郷土芸能を積極的にPRしました。）
- ② E A R O P H姫路・兵庫世界大会の開催（平成20年10月）
（「歴史・文化の持続性とまちづくり」をテーマに海外からの参加者とともに、都市政策についての活発な議論が展開されました。）
- ③ ふれあいフェスティバル2003開催（平成15年10月）
（姫路市の荒川神社の屋台6基が参加し、勇壮な屋台練りを行い、播磨の秋祭りをアピールしました。）
- ④ 姫路港開港50周年記念事業を展開（平成21年3～9月）
（「みなとがひらく播磨の未来」をテーマに、海や港にちなんだ事業が展開され、「播磨の海の玄関口」を内外に向けてPRしました。）

このように、様々な地域課題が明らかになる中で、中播磨地域では現行地域ビジョンの策定後、各地のまちづくりの進展、風水害や地震対策などへの地域ぐるみの危機管理体制の構築など、地域課題に密着した住民の主体的な参加による参画と協働の取組の展開により、ビジョン実現に向けた地域づくりが進められました。

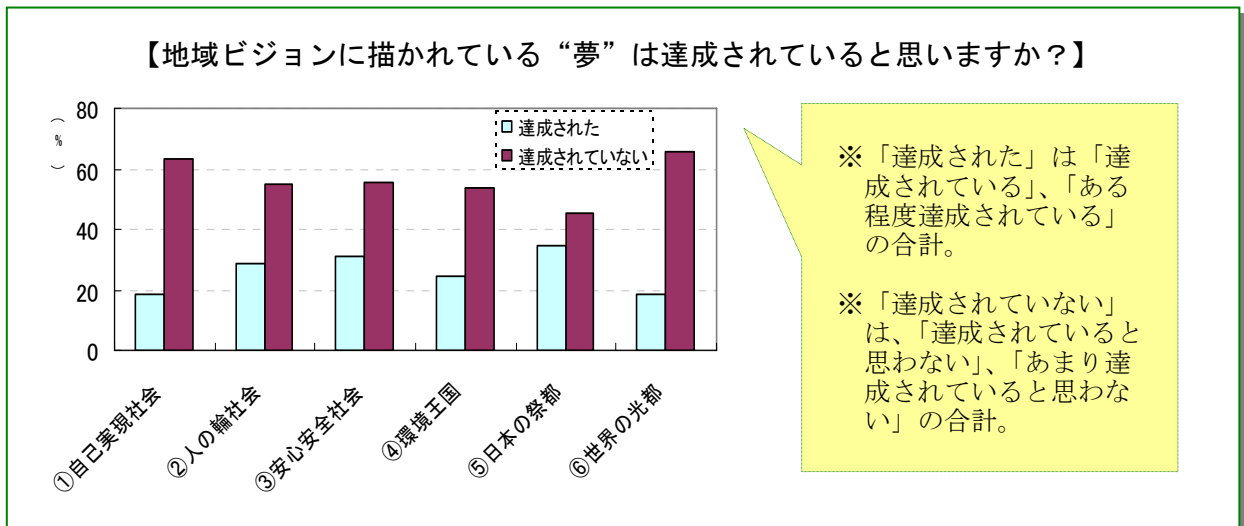
III 中播磨地域ビジョンの推進状況

1 地域ビジョンの“6つの夢”の推進状況

現行ビジョンが地域のめざすべき将来像として掲げる『6つの夢』の実現状況が、ビジョン策定後 10 年間で、どの程度達成されているか明らかにするため、中播磨地域ビジョン委員会において、アンケート評価を実施しました（平成 21 年 9 月実施）。

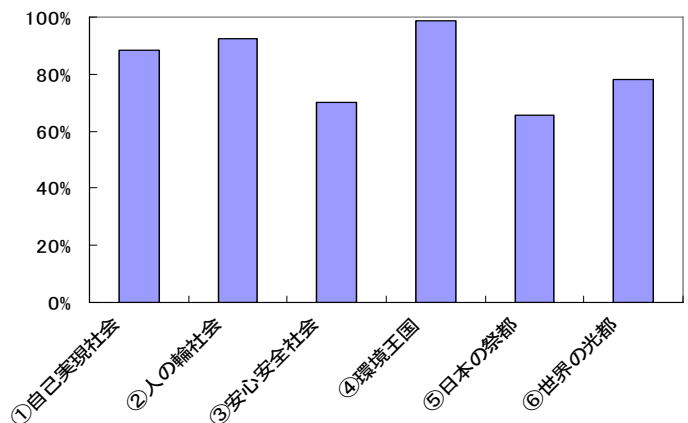
結果は下記のグラフの通りですが、6つの“夢”すべてにおいて、「達成された」が「達成されていない」を下回っています。

引き続きビジョン策定後の時代潮流の変化等を踏まえながら、地域ビジョンの実現に向けて取組をすすめてゆく必要があるという実感が浮き彫りになっています。



その一方で、現在ビジョンのめざす地域像が実現されていないと考える人の大半は、現在不十分な部分の取組は今後とも将来にわたって重要であると考えており、現行ビジョンに描かれた将来像を引き続きしっかりと引き継ぎながら、今後の地域づくりを考えていく姿勢が大切となることが明らかとなっています。

【今、不十分な取組は将来に向けて重要ですか？】



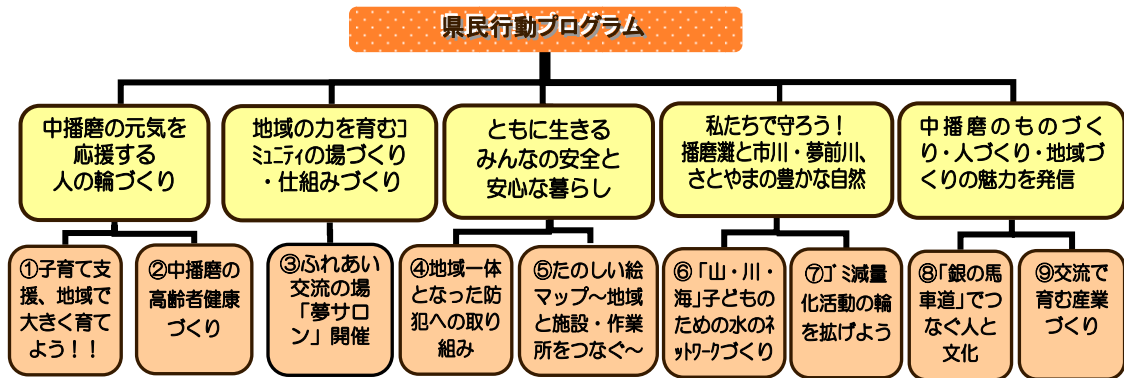
(いずれもビジョン委員アンケート結果に基づき、中播磨県民局作成)

2 県民行動プログラムの推進状況

中播磨地域ビジョンの実現に向けて取り組む県民の行動目標である「県民行動プログラム」については、各地域における様々な活動グループによる多くの取組が展開されてきました。

特に、県民行動プログラムを実践的かつ具体的な活動という形で取り組んできた中播磨地域ビジョン委員会では、下記のような様々な取組が展開され、地域における地域活動の先導的な役割を果たしてきました。

このような先駆的な取組は、地域づくり活動に取り組む人たちを互いに結びつけ、現在では地域ビジョンの実現に向け、様々な地域活動が繰り広げられています。



中播磨の元気を応援する人の輪づくり

少子化が進む中で、安心して子どもを産み育てられるよう、率先して子育て家庭を支える環境づくりを進めるとともに、フリーターや引きこもりなど日常生活の中で人間関係をうまくつukれない子どもが増加していることを受け、学校・地域が一体となって子どもの育成や青少年を有害環境から守るための活動を行ったりしました。

また、高齢者の健康で楽しい生活づくりを実現するため、校区老人会と連携して高齢者の体力測定会を行うとともに、すべての人が一緒になって健康づくりに取り組めるよう、ビーンボウリングやクロリティ（輪投げ）などのニュースポーツの普及に取り組みました。



地域の力を育むコミュニティの場づくり・仕組みづくり

地域での人と人との絆を回復し、そこに暮らす人々や家族の力を活かした地域コミュニティの再生を進めるため、地域の様々な課題解決に向けた取組を展開しました。

公民館などを活用して、地域住民が世代を越えてふれあい、交流する「ふれあい喫茶」などのサロンを開催したほか、お米作りを通して三世代交流をめざした“お米づくりにチャレンジ”プロジェクトを行いました。



ともに生きるみんなの安全と安心な暮らし

犯罪被害が危惧される無人駅のパトロールや現状調査などを行い、防犯上の課題を明らかにするとともに、その対応策について、地元の人たちと共同して取り組んだほか、「防犯」をテーマとしたフォーラムの開催や、警察との共同による「防犯教室」を開催しました。

また、障がいを持ったひとたちが地域社会の一員として安心して暮らし、持てる能力を発揮できる社会づくりをすすめるため、地域の授産施設などでどのようなものが作られているのか、また各施設・作業所がどのような活動をしているのかを調べ、マップを作成するとともに、それぞれの施設や製品について広く地域のみなさんに知ってもらおう活動に取り組みました。



私たちが守ろう！ 播磨灘と市川・夢前川、さとやまの豊かな自然

山・川・海の実態と、住民、ボランティア、行政のそれぞれの取り組みの現状などをまとめたイラストマップの作成や、自然環境保全に取り組む団体・グループなどと協働して、河川敷の再生やさとやまの再生などの実習活動に取り組んだほか、中播磨地域における自然環境活動に関するネットワーク全体の取り組みをつなげるフォーラムやイベントを開催しました。

また、一人ひとりがゴミを減らす工夫をする姿勢を普及してゆくため、各地の市民イベントに参加し、清掃活動などに取り組むとともに、ゴミの減量化についてのアドバイスを行いました。



中播磨のものづくり・人づくり・地域づくりの魅力を発信

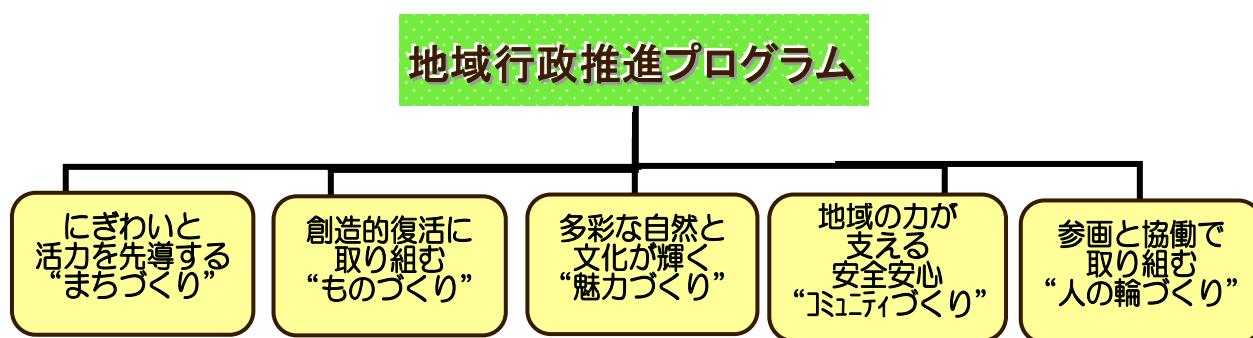
中播磨地域の山間部、臨海部、中心部相互の交流を促進し、それぞれの地域資源を有効に活用するとともに、南北交流のシンボルである「銀の馬車道」を活かしたブランドづくりを進め、魅力ある産業づくりにつなげました。

また、名産品を用いたコンテストを開催するなど、観光・伝統文化・特産品など、様々な角度から中播磨の魅力を再発掘するとともに、情報発信につとめました。



3 地域行政推進プログラムの推進状況

中播磨県民局では、地域ビジョンで描かれた夢の実現に向けて、行政の具体的な取組をまとめた地域行政推進プログラムを策定し、県民局あげてその着実な推進に努めてきました。



にぎわいと活力を先導する“まちづくり”

- ① 拠点都市・姫路の魅力の創出と都市機能の充実
 - ② 中播磨地域交流軸の形成
 - ③ にぎわいのある中心市街地づくり
 - ④ 幹線道路等の交流基盤の整備
- といった観点から、下記のような取組を進めました。

- ・ 銀の馬車道ネットワーク協議会を中心とした同プロジェクトの推進
- ・ 姫路菓子博関連イベントの開催支援
- ・ JR 姫路駅周辺整備の推進
- ・ 姫路港の整備・利活用の推進
- ・ 大手前通周辺中心市街地商店街や駅北商業ゾーンの活性化
- ・ 播磨臨海地域道路計画の推進
- ・ 「ビジネスアリーナ 2010in 兵庫」の開催支援

創造的復活に取り組む“ものづくり”

- ① 地域産業の元気回復と新たな創造的産業活動の支援
 - ② セーフティネットの充実と多様な働き方の支援
 - ③ 地産地消による農林水産業の振興
 - ④ 多様な農業の担い手育成
- といった観点から、下記のような取組をすすめました。

- ・ 「大型液晶パネル工場」立地効果の発揮
- ・ ものづくり大学校の整備
- ・ 「姫路ものづくり支援センター」を核としたものづくり産業の育成
- ・ 中播磨ものづくり出前授業の実施
- ・ 「銀の馬車道」関連商品の開発支援・PR
- ・ 夢前・夢そば街道の推進
- ・ 「旬彩蔵 福崎」等、直売施設の整備と地産地消活動の支援

多彩な自然と文化が輝く“魅力づくり”

- ① 多自然・文化地域の魅力アップとツーリズムの振興
 - ② 都市と農山漁村との交流の推進
 - ③ 美しい森・川・海づくり
 - ④ 自然と文化にふれあう環境・体験学習の推進
 - ⑤ 地球環境問題への地域レベルでの積極的展開
- といった観点から、下記のような取組をすすめました。

- ・ 映画「ノルウェイの森」等のロケ地を活用した観光PRの実施
- ・ 「銀の馬車道」ツアーバスの実施
- ・ 中播磨地域廃食油リサイクルモデルシステムの構築、推進
- ・ 自然を活用した環境学習の推進
- ・ 「播磨ふるさとの美味しいもの100選」を活かした地産地消、食育活動の推進
- ・ 神河町地域交流センターを活用した環境学習の推進

地域の力が支える安全安心 “コミュニティづくり”

- ① 安全安心のまちづくり
 - ② 防災対策の推進
 - ③ 地域で育む子ども・青少年安心環境
 - ④ 保健・医療・福祉施策の総合的推進
- といった観点から、下記のような取組を進めました。

- ・ 地域医療確保対策の推進
- ・ 安全・安心なコミュニティづくりの推進
- ・ 中播磨子育て応援ボランティアの育成
- ・ 中播磨圏域リハビリテーションシステムの構築
- ・ 高齢者の在宅医療等「地域ケア体制」の整備および見守り運動の推進
- ・ 緊急経済・雇用対策の推進

参画と協働で取り組む “人の輪づくり”

- ① 住民の主体的な活動促進とネットワークづくり
 - ② 人と情報をつなげる I T の活用
 - ③ 「ともに知る」、「ともに考える」、「ともに取り組む」、「ともに育む」
- といった観点から、下記のような取組を進めました。

- ・ 「銀の馬車道」リレーイベントへの支援
- ・ 在日外国人（ベトナム人）の社会参加促進の支援
- ・ 「中播磨地域づくり活動交流研修」事業の実施
- ・ 地域づくり活動応援事業の推進

IV 新たな“夢”～改良版 中播磨地域ビジョン～

1 再構築に向けて必要とされる視点（意見総括）

中播磨地域ビジョン委員会では、地域夢会議、兵庫みらいフォーラム、アンケート調査の実施、テーマ別意見交換会、未来を担う若いみなさんからの意見募集等を通じて、幅広い県民のみなさんからめざすべき中播磨地域の将来像に向けて多数の意見をいただくことができました。

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの主な意見】

未来を担うのは子どもたち。地域で生きる人々を育てていく視点が重要。

ビジョンを支えていくための地域や人を繋いでいくことが大切。

現在のビジョンは、どこの地域でも言えるような事柄が多い。もっと中播磨らしさを出さないといけない。

ところどころに、他の地域の特徴である事柄も含まれており、文言を精査する必要がある（※注）。

中播磨には、姫路城やまつり、自然豊かな山間地域と都市部が隣接しているというすばらしい地域特性がたくさんある。こういった“らしさ”を強調できるものにしたい。

項目が多すぎて、よくわからない。一目でわかりやすいものにするべき。

地域のみなさんが、自分の地域を好きになれるような、誠意のこもったわかりやすいものがいい。

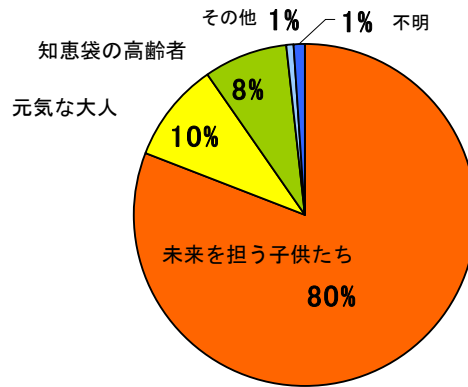
抽象的すぎる事柄が多い。頭の中にずっとイメージが沸くようなビジョンの方が望ましいと思う。

10年前に創ったビジョンだけれど、めざすべき方向性は今後も同じだと思う。

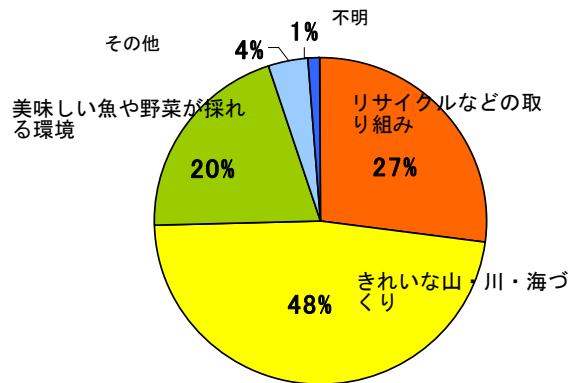
「地域を守り育てる力や、人と人とのつながりを強くしていくために、重要となる視点」としては、「未来を担う子どもたち」を念頭に置くことが大切。子どもたちを地域ぐるみで育成していくことを通じて、「人」が繋がっていく、という視点に基づいて現行ビジョンの修正を行う必要がある。

わかりにくいところもあるけれど、将来の地域の“夢”として、先輩方が築かれたビジョンを大切に引き継いでいくべき。

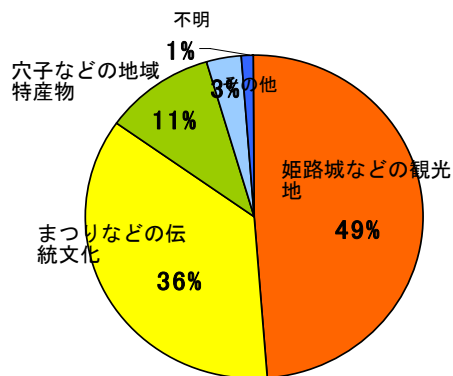
【「地域を守り育てる力や、人と人のつながりを強くしていくのものは？」】



【自然に優しい暮らしに一番大切なものは？】



【100年後の未来へ持っていける『中播磨の宝物』は？】



これらのご意見をもとに、さらに各個別分野でもみなさんから頂いた意見を反映させながら、現行ビジョンの点検・見直しを行い、現行地域ビジョンをフォローアップする形で以下のとおり改めました。

2 基本姿勢について

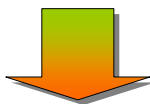
中播磨地域の未来を担っていく子どもたちが、未来への夢や大志を抱き、世界の中で信頼される人間として育っていくためには、中播磨に生きる私たちがお互いにつながりを大切にし、人と人とのつながりの中で地域ぐるみでビジョンの実現に向けて取り組む姿勢が必要です。

また、中播磨地域は、市川・夢前川流域に連なる姫路市、福崎町、市川町、神河町の4市町から構成される南北軸を骨格とする地域です。個性あふれるそれぞれの地域特性を活かし、それらをつなぎながら、ビジョンの実現に取り組んでいく姿勢も必要となります。

現行ビジョン策定後、地域における様々な取組の中で培われた「人の輪」や「地域の輪」を有機的につなぎ、さらに元気な中播磨地域の実現に向けたシンボルとして、古来より中播磨地域の歴史、文化、自然をつないできた「銀の馬車道」に焦点をあて、下記のとおり地域づくりに取り組む姿勢とします。

〈現行ビジョン〉

一人ひとりの自己実現を大切に、地域でともに生きる



〈改訂ビジョン〉

**～つなぐ・つながる 銀の馬車道～
人の輪と地域の輪がつながる元気な中播磨をつくろう**

3 地域の夢と目標像

地域夢会議をはじめとするさまざまな機会でもっていただいた意見では、現行地域ビジョンが掲げる将来像の基本的な考え方や方向性について、策定後10年を経過した現在でも大切に、引き続き実現に向けて取り組んでゆくべきであるという意見が数多く寄せられました。

このため、現行ビジョンの目標像を基礎とし、ビジョン策定後の時代の変化や、様々な意見交換の中から明らかになった中播磨地域のめざすべき将来像を反映させながら、下記のとおりとりまとめました。

〈現行：6つの夢と34の目標像〉

自己実現社会	生きがいを持って暮らそう	子どもが健やかに育ち「心・体・感性」を伸ばせる地域をめざそう
		女性が働きながら生き生きと暮らせる社会をめざそう
		高齢者は豊かな経験や能力を発揮しよう
		生きがいを追求しよう
		住みなれたふるさとで誇りを持って暮らそう
人の輪社会	人と人が創る豊かな人間関係を広げよう	だれにとっても住みやすいコミュニティをつくろう
		地域全体で子育てを支援しよう
		ボランティア活動を広げよう
		暮らし、福祉などの身近なサービスを提供しよう
		情報がつながるネットワーク社会をつくろう
		交通網を充実し、内外交流を充実させよう
安心安全社会	住みなれた地域で支え合ってともに生きよう	一人暮らしや介護が必要な高齢者が安心して暮らせる地域をつくろう
		障害のある人とその親が安心し、生きがいをもって暮らせる地域をつくろう
		高齢者・障害のある人に優しいまちをつくろう
		安心・充実した医療・福祉サービスを完備しよう
		一人ひとりが健康づくりに取り組もう
		防災・防犯・交通安全を徹底しよう
環境王国	人と自然の営みが調和した循環型社会をめざそう	「ごみゼロ社会」をめざそう
		一人ひとりが環境意識を高めよう
		美しい揖保川、千種川、播磨灘をつくろう
		子どものころ遊んだ美しい森づくりを進めよう
		自然環境に調和した農林水産業と活気ある農山漁村をつくろう
日本の祭都	うるおいとにぎわいのある地域をつくろう	個性とにぎわいの中心市街地をつくろう
		暮らしやすい快適な住まいをつくろう
		芸術・文化・スポーツ施設を活用しよう
		開かれた西播磨文化を創造しよう
		伝統の祭りや新しいイベントを展開しよう
		歴史・文化・自然を活かした滞在型観光を進めよう
世界の光都	世界につながる創造的で活力ある社会をめざそう	企業の創造的活動を支援し、起業家を応援しよう
		テクノポリスを世界一の先端技術集積地にしよう
		産業基盤の整備を進めよう
		播磨科学公園都市のまちづくりを進めよう
		社会貢献する企業を応援しよう
		世界につながり、国際交流の盛んな地域づくりをしよう

〈修正・見直し案：4つの夢と16の目標像〉

希望が育つ中播磨	子どもが元気に育つ、つながりのある地域をつくろう	地域全体で子育てを支援し、子どもが健やかに育つ社会をつくろう
		温かい心や思いやり、ふるさとに誇りを持てる子どもが育つ地域をめざそう
		ボランティアの輪が広がる、温かいコミュニティをつくろう
		夢を持ち、生きがいを求めることのできる社会をめざそう

安全安心の中播磨	みんなが安心して暮らせる地域をつくろう	高齢者がいきいきと暮らせる地域をつくろう
		障がいのある人が生きがいを持って暮らせる地域をつくろう
		安心な医療ネットワークが構築され、一人ひとりが健康づくりをすすめる地域をめざそう
		みんなで防災・防犯・交通安全に取り組む地域をめざそう

自然豊かな中播磨	自然環境の営みを大切に作る地域をつくろう	地球環境を守るライフスタイルをめざそう
		モノが大切にされる「循環型社会」をめざそう
		山・川・海のネットワークを大切にする、自然豊かな地域をめざそう
		自然を生かした農林水産業と活力ある農山漁村をつくろう

元気交流の中播磨	にぎわいと交流の元気な地域をつくろう	地域資源を活かし、地域間交流や国際交流を進めよう
		祭りなどの伝統的な魅力とともに、新しい中播磨の魅力を発掘・発信してゆこう
		個性と賑わいのある快適なまちづくりをすすめよう
		がんばる企業や起業家を応援し、元気な産業を育成しよう

〈点検・見直し案：4つの夢と16の目標像〉



希望が育つ中播磨

(1) 子どもが元気に育つ、つながりのある地域をつくろう

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの主な意見】

- 人材が生まれ、定着する“人材の宝庫・中播磨”・教育都市を構築したい。
- “してもらって当然”から“してあげる喜び”を親・子ども・学校みんなで考えていくことが大切。
- 子どもを地域の人たちの温かい目で見守ったり支援することが大切。
- 伝承文化を若い人に継承し“ふるさと大好き”と思える環境をつくっていくことが大切。
- 先人の苦勞が礎になって現在のまちがある。世代を越えた思いやりを育んでいきたい。
- 親子の絆が薄れ、子ども達に思いやりの心が無くなってきている。親子の絆を深め、子どもたちに思いやりの心を育んできたい。
- 収入には関係なく、ボランティア活動であったり、自分の能力や個性を生かせる機会や場が必要。
- 若者や高齢者が自発的に地域活動に参加できる地域づくりが必要。
- リタイアした教育者や企業家等を子育て・教育リーダーとして招聘し、子育てしやすい環境を形成できれば。
- 今は少なくなったが、おせっかいおばさんや頑固おやじのような、人と人をつなぐことができる人材を地域に育成することが大事。
- ワークライフバランスを充実させるため、安心して働けるよう、保育環境の充実、安心して預けて働ける環境づくりも重要である。

① 地域全体で子育てを支援し、子どもが健やかに育つ社会をつくろう

誰もが安心して子どもを産み、育て、健やかに育成できる環境づくりを地域ぐるみで支援していきます。そのため、家族みんなで子育てに取り組み、子どもを地域の温かい目で見守るとともに、子ども相互の交流や三世代交流といった地域間・世代間交流をすすめます。

また、家庭・学校・地域がそれぞれの責任を果たすとともに、協力しあって子どもたちが心豊かにいきいきと育つ地域をめざします。

さらに、子ども自身が主体性をもって生きる喜びを感じられる力を育むことをサポートする子どもの居場所づくりに取り組むとともに、地域で子育てに取り組む人々の交流の場づくりをすすめます。



② 温かい心や思いやり、ふるさとに誇りを持てる子どもが育つ地域をめざそう

生まれ育ち、また住みなれたふるさとに誇り持ち、誰もが地域に密着した潤いのある生活ができる地域をめざします。“親の背を見て育つ”子どもたちを育むためにも、大人自身が自分の生き方や行動に責任を持ち、社会全体の規律やマナーアップの向上に取り組んでいきます。

また、中播磨においては長い歴史の中で培われた祭りや伝統文化が多数あることから、これらを活用・継承することにより、“ふるさと”の誇りを高めていくとりくみを進めます。



③ ボランティアの輪が広がる、温かいコミュニティをつくろう



ボランティアの活動やネットワークを広げ、誰もが気軽に地域課題の解決に参画できる社会をめざします。

そのため、ボランティア活動指導者や実践者の育成支援等を行うとともに、これらの人々のネットワークを築き、地域での人材・情報の交流を通じて、誰もが自発的かつ温かな気持ちで地域課題に取り組んでいくことのできるコミュニティ形成をめざします。

④ 夢を持ち、生きがいを求めることができる社会をめざそう

誰もがあらゆる人生のステージにおいて、学習、就労、経営、コミュニティ活動など、社会の様々な領域で自分の夢や希望を実現できる社会をめざします。

生きがいを持って働く人を応援するため、新規就業前や離職中にも自己研鑽、能力開発ができるような環境づくりをすすめるなど、自己実現をめざして創造的にチャレンジしている全ての人を地域ぐるみで応援していける地域をめざします。このため、全ての人が働きやすい労働環境や相談体制を構築するとともに、働きながら安心して子育てに取り組むことができるような環境整備も推進します。



安全安心中播磨

(2) みんなが安心して暮らせる地域をつくろう

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの主な意見】

- 高齢であっても障害があっても、みんなが住みなれた地域で役割を持っていきいきと暮らせる居場所や地域づくりをしよう。
- 高齢者が自発的に地域活動に参加できる地域づくりが必要。
- 一人暮らしの存在そのものを考え、一人暮らしを減少するために“家族の絆”を考える必要がある。
- 健康づくりは、一人では続かないことも、家族や地域ぐるみで活動すると継続しやすい。
- 子どもの防犯防止の徹底など、地域全体でパトロールをしたり安全な環境をつくっていくことが大切。
- 子どもたちが被害者となる事件も増えているので、家庭、学校、地域の連携が必要。

① 高齢者がいきいきと暮らせる地域をつくろう

住みなれた地域や家庭で、高齢者が安心して過ごすことができ、自らの持つ知識や経験を活かしながら誇りと生きがいを持って暮らせる地域をめざします。

また、高齢者の介護・安否確認などについて地域単位で助け合うシステムづくりに取り組み、一人暮らしや介護を必要とする高齢者にとっても安心して暮らすことのできる地域をめざします。



② 障がいのある人が生きがいを持って暮らせる地域をつくろう



障がいのある人のみならず、見守る周囲の人々が安心していきいきと暮らせるよう「ノーマライゼーション」の実現に地域ぐるみで取り組み、在宅サービスの充実や就職などによる自立支援に努めます。

また、世代や障害を越えた交流を通じて、すべての人々が自分らしく生きがいを持って暮らせるとともに、誰もが使いやすく、住みやすいまちづくりをすすめてゆきます

③ 安心な医療ネットワークが構築され、一人ひとりが健康づくりをすすめる地域をめざそう

いつでも気軽に医療を受けることができ、住民が自由に選択できる医療・福祉サービスを提供できる地域をめざします。

また、今後とも高齢化が進行してゆくことから、高齢者をはじめ、すべての人々が自らの体力を知り、維持向上や健康増進に取り組んでゆくことを通じて、いつまでも健康でいきいきと暮らせる地域をめざします。



④ みんなで防災・防犯・交通安全に取り組む地域をめざそう



「自分たちのまちは自分たちで守る」ことを基本として、地域ぐるみで災害に即応できる体制づくりや、河川改修、海岸域の保全、土砂災害対策、治山などを進め、災害の少ない自然環境と調和した地域づくりを進めます。

また、防犯意識や交通安全意識を高めるなど、地域全体で事故・犯罪などの起こりにくい環境づくりをすすめます。



自然豊かな中播磨

(3) 自然環境の営みを大切にす地域をつくろう

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの主な意見】

- 化石燃料の大量消費で環境に大変な負担をかけ続けている。ライフスタイルをみなおし、自然にやさしい社会を築きたい。
- 化石燃料を使わない自転車のまちづくりを推進していきたい。
- 大量消費社会のなか、ものや資源のありがたみを忘れかけている。自給自足に近いかたちで、自然との共生を考えることのできる体験や機会づくりも必要。
- 牛の糞尿を隣接の農地で有機肥料として使用し、循環型の総合有機農業を展開する。
- 地域内外から農業に興味のある中高年や、自然環境に親しみたい子ども・親たちの参加が促進される農業ができれば。
- 森林の間伐や清掃といった保全活動のほか、地場の農作物のイベントを開催する等、森林と食に関心のある都市住民と地元の交流を促すことが必要。
- 「一般家庭ゴミゼロ」の地域づくりによる中播磨版循環型社会の実現。
- ゴミ処理の有料化とあわせて、ペットボトルや缶などを用いる企業と連携し、デポジット制が徹底できればよい。
- 食育について考え、子ども自らが「食」への意識を持てるような関わり、環境を考えることが必要。
- 畜産家の学生や農業高校生などの若者が集まる、魅力的な中山間地域づくりが求められる。
- 中山間で肥育した牛や乳製品のブランド化（姫ビーフ、銀馬車ミルク等）を行い、付加価値の高い農業を行う。
- 古民家でのショートステイや子どものいなくなった農業世帯へのホームステイを促進できる地域にしたい。

① 地球環境を守るライフスタイルをめざそう

地球環境を守るため、省エネ、省資源に努めるとともに、クリーンエネルギーの導入をめざします。特に、地球温暖化防止の観点から、身の回りのものを有効活用したり、自転車や公共交通機関の利用等といった環境に負荷のかかりにくいライフスタイルの確立に向けて、地域ぐるみの活動を展開してゆきます。

また、主体的な環境活動を進めるため、適切な環境情報の提供や共有化、活動団体の支援やネットワークづくりを進めます。



② モノが大切にされる「循環型社会」をめざそう



大量生産・大量廃棄社会から、ゴミの発生をできるだけ少なくする循環型社会をめざし、従来の分別収集・リサイクルに加え、ゴミの発生抑制や再利用品の利用などに取り組める地域づくりをめざします。

また、資源や環境を大切にできる豊かな心を子どもの頃より育ててゆくため、地域における様々な取組や、自然豊かな環境を活用した環境学習をすすめてゆきます。

③ 山・川・海のネットワークを大切にする地域をめざそう

森林の持つ多面的機能などを高めるため、里山林の整備や人工林の間伐など、県民総参加による森づくりをすすめる地域をめざします。

また、美しい川や海づくりを進めるために、流域や水系ごとに広がる活動のネットワーク化をすすめ、自然にやさしい河川の実現に向けて取組をすすめる地域をめざします。



④ 自然を生かした農林水産業と活力ある農山漁村をつくろう



付加価値の高い自然循環型の農林水産業の振興をはじめとする農の6次産業化を促進するとともに、都市と農山村交流による地域間交流をすすめ、元気な農山漁村づくりをすすめます。

また、新鮮で安全な農林水産物を身近に楽しめる地産地消をすすめ、食品産業と連携した新たな展開を行える地域づくりをめざします。

元気交流中播磨

(4) にぎわいと交流の元気な地域をつくろう

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの意見】

- 姫路城をはじめとする観光資源が豊富な地域なので、“面”の観光を促進し、観光関連産業を発展させるべき。
- 「姫路城」と「銀の馬車道」が連携し、新たな観光ルートが設定されたり、伝統文化や産業・食の情報発信がされることにより、地域が活性化する。
- 外国人の観光客が多くなったのに、案内板等が意外にない。外国人のみなさんにも過ごしやすいまちづくりがすすめば。
- 外国人が増えた。実際に接する前はコワイけど、交流するとすごくいろいろ学べて楽しいし、自分の世界が広がる。みんながこういう気持ちになれば。
- 異文化交流は外国との交流にはとどまらないと考える。漁村と山村の交流、都市と過疎地の交流も大きな意味で異文化の交流。もっと活発になれば、地域も元気になる。
- 国際化に対応するには、播磨の特色を出し、個性的で、吸引力のある地域になるような取り組みをすべき。
- 夜の姫路城、広峰から見る夜景など、あまり有名でないけどすばらしいものが姫路にはたくさんある。こういうのが有名になり、町全体が活気づけば。
- 伝承文化を若い人に継承し“ふるさと大好き”と思える環境をつくっていくことが大切。
- まだ知られていない播磨の魅力や、個性的な取り組みをしている人材を発掘し、域外から来られた方に提供できる心地いい地域を目指したい。
- 観光客が増えたのにポイ捨て等によりまちが美しくない。みんなが自分でまちをきれいにする取り組みをすすんで行える、きれいなまちづくりが必要。
- 平成の大合併により各市町の中心市街地が分散した形になっている。商・住・遊・ビジネスの集積を促し、空き店舗対策、魅力ある商店街づくりに取り組むべき。
- 姫路港エリアを中心に重工業がさかんで、それを支える技術をもった中小企業がたくさんあつまる地域。これを強みにしていかないと。
- 地域の産業を広くアピールするとともに、地域内外の連携による新たな産業を興し、雇用を増やしていきたい。
- 中播磨地域1市3町の地域資源をつなぐ銀の馬車道をもっと活用してゆこう。

① 地域資源を活かし、地域間交流や国際交流を進めよう

姫路城・書写山圓教寺をはじめとする歴史・文化資源や、山・川・海といった豊かな自然等、地域にあふれる魅力ある資源を活用し、ツーリズムの振興等を通じて地域の人々を魅了し、多くの人々が訪れ、交流できる地域づくりをすすめます。

また、外国人にとっても訪れやすく住みやすいように、外国語による地域情報の提供、国際化に対応したまちづくりや住民が異文化とふれあう仕組みづくりを行い、世界中から多数の人が集い、多様な人々との交流ができる地域づくりをめざします。



② 祭りなどの伝統的な文化とともに、新しい中播磨の魅力を発掘・発信しよう

秋祭りや浴衣祭りなどの個性あふれる祭りや、和菓子・皮細工等の特産品等、中播磨地域には長い歳月をかけて培われた伝統的な魅力がたくさんあります。

また、映画のロケ地やB1 グルメなど、中播磨地域には新たに育ちつつある個性豊かな地域資源のほか、「銀の馬車道」のように歴史的な価値が新たに目覚め、再度光を放つこととなった魅力ある資源がたくさんあります。

これらの資源を見つめ直し、「体験型」・「着地型」の多彩な観光プログラムを増やし、ツーリズムを振興するとともに、住民が自らの地域の魅力を再認識し、これらを活用しながら、さらに元気な地域づくりに取り組んでいきます。



③ 個性と賑わいのある快適なまちづくりをすすめよう



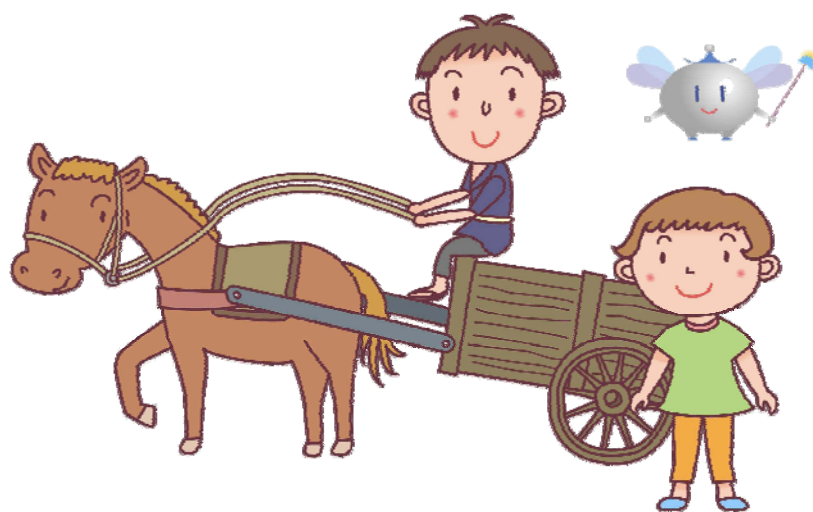
中播磨の顔である姫路駅周辺整備をはじめ、道路、公園緑地などの基盤整備とともに、商店街等やスポーツ・文化施設等が身近にある、暮らしやすく、かつ緑豊かな居住空間形成をめざします。

また、まちづくりへの住民参加意識を高め、商店街などの生活利便施設や自然豊かで暮らしやすい快適なまちづくりをめざします。

④ がんばる企業や起業家を応援し、元気な産業を育成しよう

中播磨地域では、多くの中小企業が地域経済を支えており、大企業も含めて創造的な産業活動に取り組んでいます。このような意欲的に活動している企業を応援するとともに、様々な人材が自由に交流できる環境や支援制度を整備していきます。

既存産業技術の高度化、ITC 導入促進や新製品の開発支援、起業家支援などを通じて、新しいしごとを生み育てる環境を整えていきます。



V 新たな“夢”の実現にむけて

改訂したビジョンが描いた将来像を実現していくためには、具体的な戦略を定め、個人、団体、企業等をはじめとする県民と行政が連携し、取組をすすめていくことが必要です。

そこで、地域住民が行う自律的な実践活動の取組や連携方法を定める「県民行動プログラム」と、中播磨地域における県行政の重点的な内容を定める「地域経営プログラム」を策定するとともに、これらの進捗状況を図るモノサシとして、「地域力指標」を活用していくことを提案します。

1 県民行動プログラム

地域住民が自律的な実践活動やアクションをおこすとともに、互いに連携しながらビジョンの実現に向けて取組をすすめていくにあたり、4つの“夢”ごとに、県民が主体となって取り組みを進めていくアクションのアイデアを提案します。

【希望が育つ中播磨】

(1) 子どもが元気に育つ、つながりのある地域をつくろう

【アクション1】

あいさつを通じて、地域みんなで 顔の見える関係を築く

地域住民一人ひとりが、あいさつ、声かけ及び見守り運動を展開し、日常生活においても、気軽に声をかけやすい地域づくりを進めます。

【具体的アイデア】

子どもたちを見たら、自分からあいさつする／親同士がコミュニケーションをとる／子どもの登下校時に気軽に声をかけるようにする／お隣の人を気遣う

【アクション2】

姫路城などの文化遺産や地域の歴史を伝える活動を展開する

子どもたち自身が地域の文化や歴史について学び、地域やそれを取りまく人々を愛することができるよう、実際に文化や歴史に触れる機会を創出します。

【具体的アイデア】

子どもとともに、地域にある文化遺産をめぐる／地域の文化や歴史をしっかりと教える／祭り、盆踊りに参加をつのる活動を盛り上げる／地域の語りべになり、地域について語る

【アクション3】

地域住民みんなが交流できる場をつくる

家族の枠にとらわれず、世代を越えてつきあえる交流の場を地域に創っていきます。

【具体的アイデア】

子どもが集い、学べる寺子屋活動を活性化する／神社、寺、地蔵さん等の公共的場所の片づけ、掃除をみんな一緒にする／小学校と地域と一緒にボランティア活動をする／活動拠点として公民館を活用する

【アクション4】

誰もがいつでも学ぶことができる環境をつくる

仕事や地域などあらゆる場を通じて、年齢を問わず誰もが学ぶことができる環境やサポートする活動を展開します。

【具体的アイデア】

夢や生きがいについて語り合える体験イベントを実施する／学童保育の時間を延長する／お年寄りが働き続ける場をつくる



【安心安全中播磨】

(2) みんなが安心して暮らせる地域をつくろう

【アクション1】

人材バンクをつくり、世代を越え たつながりをつくる

リタイア後の人たちの貴重な体験や技能を地域の宝にとらえ、次の世代に継承できる人材バンクをつくり、子どもとの交流を促進する。

【具体的アイデア】

地域のすごいおっちゃん・すごいおばちゃんがいる人材バンクを創設し、高齢者の体験や技能を地域・子どもたちに還元するしくみをつくる／自治会・老人会・婦人会・子供会などの縦割りをなくした広域ネットワークを構築する

【アクション2】

地域マップやネットワークをつく り、安全情報を共有する

多くなった一人暮らしの高齢者を地域で把握し、危険な場所がある場合は情報を共有し、対策につなげ、危機意識を持つとともに安心につなげる。

【具体的アイデア】

一人暮らし高齢者の居住地マップをつくる／危険な場所を調査しマップにする／小学校・自治会など各単位で情報共有できるネットワークをつくる

【アクション3】

みんなの健康と安全を守る

見守り隊のパトロールで子どもを危険から守り、高齢者や障がい者が健康で元気に活動できる地域の基盤をつくる。

【具体的アイデア】

小学生の登下校時に見守り隊でパトロールする／犯罪が危惧される場所の現状調査をして防犯上の課題を明らかにするとともに対応策について取り組む／自治会・老人会単位で体力測定を実施し、住民主体の健康づくりを行う

【アクション4】

互いに助け合う地域づくりを促 進する

地域活動をした人に希望に応じて、「将来介護券」「地域通貨」「銀馬車商品券」を発行し、将来の不安を小さくするとともに、地域住民がお互いに助け合う体制を構築する。

【具体的アイデア】

地域活動等にたいして「将来介護券」を発行する／「地域通貨」「銀馬車商品券」をつくる

【自然豊かな中播磨】

(3) 自然環境の営みを大切にする地域をつくろう

【アクション1】

山川海などの地域の自然を守る 活動の促進

リサイクルやエコキャップ運動の促進、河川敷、さとやまの再生を目指した環境保全活動グループを結成するなど、地域住民一人ひとりが地域の環境保全活動に参加する体制をつくる。

【具体的アイデア】

里山ガーデンをつくるプロジェクトを企画する／ゴミ減量化をテーマにしたフォーラムを開催する／新聞・服などリサイクルできる物は出す

【アクション2】

地域の環境ネットワークを構築 する

山川海の自然を守る活動を通じて水のネットワークや、よりよい農業へのネットワークを構築する。

【具体的アイデア】

山川海の実態と住民、ボランティア、行政の取り組みの現状をマップ化／地産地消のネットワークシステムを整備する／環境に関するボランティア活動を行っている団体を把握する

【アクション3】

眠っている自然や遺産を発掘・リ ニューアルする

放棄田を活用した農業体験の実施や、湾岸や土手の整備を行い観光資源として利用するなど、地元の埋もれた自然などを生かし新たな地域資源として発信する。

【具体的アイデア】

観光資源としての書写山再考／整備した姫路の湾岸を beach にし利用する／放棄田を有効活用する／グリーンハウスをつくる

【アクション4】

食による地域資源の有効活用

農業従事者・パティシエと連携した地元の食材を使用したお菓子の開発や、害獣対策の一環として鹿肉を使ったハンバーグを作るなど、自然環境を保護するとともに、地元の食材を使った「食」の発信をしていく。

【具体的アイデア】

減農薬の米・野菜をつくる／牛の糞尿を有機肥料として使用する／「地産地消地技」にこだわった菓子を開発する

【元気交流中播磨】

(4) にぎわいと交流の元気な地域をつくろう

【アクション1】

個人、家族、地域単位でのつながりを深める

統廃合した市町村の学校跡や空き店舗などを地域住民の交流の場として有効活用し、地域の高齢者などが語りベグループとなり、子どもたちにまつりや伝統文化の継承をする。

【具体的アイデア】

跡地を有効活用する／空き店舗対策をして魅力ある商店街にする／語りベグループをつくる／伝承文化を若い人に継承し、ふるさと大好き！と思える環境をつくる

【アクション2】

あらたな地域資源の発信！

地域の当り前を当り前とせず、新しい地域の魅力として、B級グルメや、播磨を代表するまつりをPRするイベントを開催するなど地域内外での交流を図る。

【具体的アイデア】

現在の播磨を代表するお祭りを内外にPRする／地域内外での異文化交流を図る／B級グルメを広める／雪彦山を宣伝し、山ガールでにぎわう山にする／西播磨・中播磨の共同で、城跡を発掘

【アクション3】

誘客プロジェクトの展開

豊かな自然や特産物、観光地などの既存の地域資源を生かし、スタンプラリー・ウォーキングイベント、グルメフェアを開催するなど地域の魅力を発信できるプロジェクトを展開する。

【具体的アイデア】

祭りのスタンプラリーを季節を通して実施／産業ツーリズムの開発と実施／観光地をめぐるウォーキングイベントを開催／ボランティアガイドの養成

【アクション4】

銀の馬車道事業を盛り上げ、観光客を増やす

銀の馬車道をたどるウォーキングイベントや、新たな銀馬車商品の開発・販売、沿線沿いにある名所をボランティアガイドが案内するなど、銀の馬車道を使って地域の魅力をアピールする。

【具体的アイデア】

銀の馬車道スタンプラリーを開催する／銀の馬車道のうたやラッピング電車をアピールしてイベントの開催をする／銀の馬車道沿線の会社等のHPで地域の歴史や施設を紹介

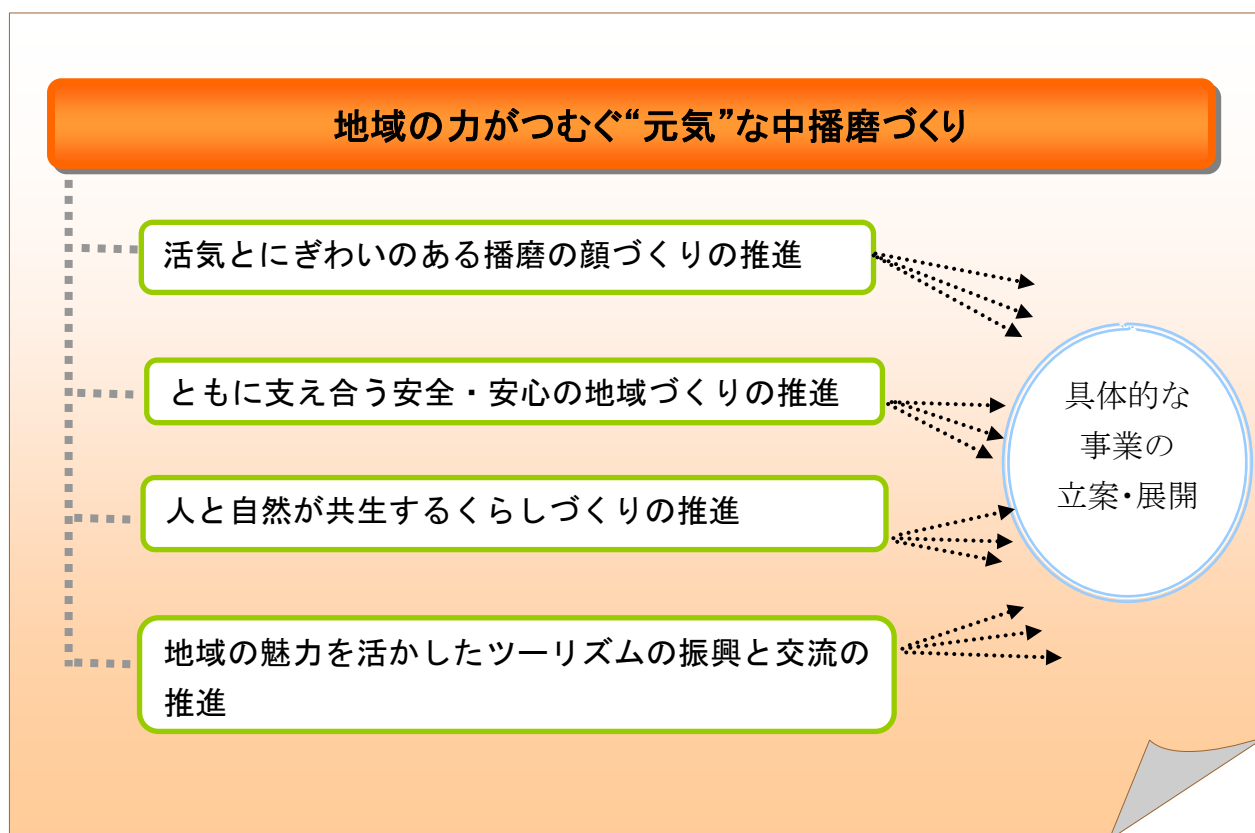
2 地域経営プログラム

中播磨県民局では、地域ビジョンで描かれた夢の実現に向けて、行政の具体的な取組をまとめた行政推進プログラムを策定し（第1次：H14.3、第2次：H18.3）、県民局あげてその着実な推進に努めてきました。

今回、ビジョンを見直すにあたり、新しい地域ビジョンの基本姿勢である“人の輪と地域の輪がつながる元気な中播磨をつくろう”を基本コンセプトに、直面する課題に対し、事業の「選択と集中」を図りつつ、県民、市町、団体、企業等の参画と協働のもとで、地域政策の総合的な展開を図っていきます。

なお、時代潮流の急激な変化や地域課題に機動的に対応していくことが大切との視点に立ち、今後は毎年「地域経営プログラム」を策定し、地域ビジョンの実現のための施策を積極的に展開することとします。

【参考】平成23年度中播磨地域経営プログラム



3 “地域力指標”に基づく継続的なビジョンのフォローアップ

ビジョンが策定された平成13年以前は、長期的な視点からの県政の方針は「長期総合計画」という形で示されてきましたが、兵庫県では、県民自らが主体的に地域の「夢」や将来像を描くことに「参画」することを基本姿勢とし、参画と協働による兵庫県づくりの指針として「ビジョン」を策定することとなりました。ビジョンは、県民みんなが将来的目標として共有できる望ましい社会や地域の姿を示すものであり、実施すべき行政施策や事業量を示してきた行政主導の「計画」から脱却し、目標自体よりも参画と協働で地域づくりを進めるプロセスとフォローアップを重視した取組を展開していくことが期待されてきたのです。

しかしながら、ビジョン策定から10年が経過し、「先行き不透明な時代の中で、明確な将来像（目標）を共有することが必要ではないか」、「取組効果の顕彰など、的確なフォローアップのツールとして、数値目標が必要なのではないか」ということが指摘されています。従来より兵庫県では社会の動向、県行政の成果、県民の意識等を示す約500の指標を「美しい兵庫指標」とし、ビジョンの実現状況とともに確かめるツールとし、活用する取組を推進してきました。しかしながら、各指標単体では今後さらに複雑多様化する地域課題やビジョンをフォローアップすることは難しくなることが予想され、多角的に判断する指標が求められます。

そこで、従来の「美しい兵庫指標」を、環境・安全・安心・つながりなど多角的に地域の強み、豊かさを評価する「地域力指標」として再編・充実させてゆく取組をビジョンの推進と同時に進めてゆきます。

地域力指標は、従来の指標データベース（指標の森）に加え、従来の指標データベース等を活用した統合的な指標、手作り地域力指標の3つから構成し、地域課題の把握・共有に有効なツール、効果的な地域づくり活動の展開に役立ててゆくこととします。

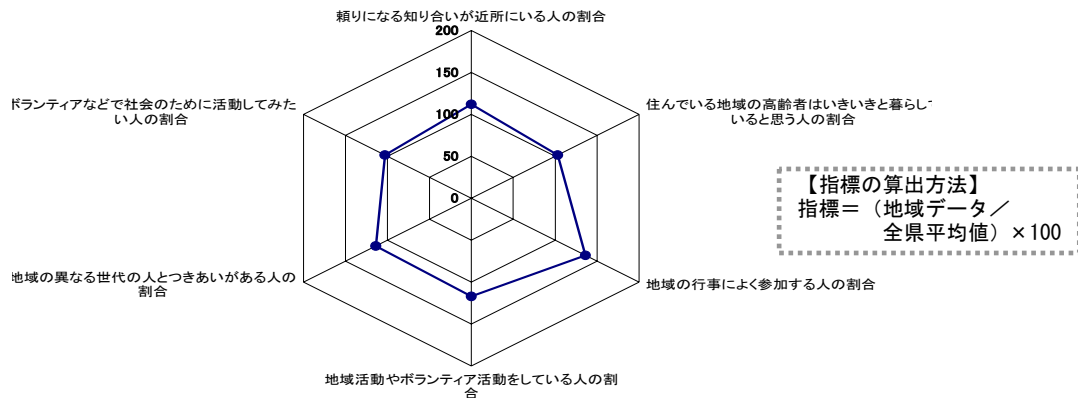
指標データベース（“指標の森”の改善）

従来より、兵庫県ではビジョンに関する約 540 の指標や統計値の集まりを「指標の森」と呼び、データベースとして整備・公開してきました。これらをさらにビジョンの進捗を図りやすいよう、再整理することとし、継続的に活用していきます。

統合的な指標

単体の指標データベースを、目的・関心に応じて組み合わせ、レーダーチャート化する等、地域の強み・弱みを多角的に把握していきます。

【例】指標の統合によるレーダーチャート化



項目	中播磨	全県平均	指数
頼りになる知り合いが近所にいる人の割合	62.7%	56.0%	112
住んでいる地域の高齢者はいきいきと暮らしていると思う人の割合	44.6%	43.2%	103
地域の行事によく参加する人の割合	48.3%	35.5%	136
地域活動やボランティア活動をしている人の割合	27.7%	23.6%	117
地域の異なる世代の人とつきあいがある人の割合	45.9%	40.4%	114
ボランティアなどで社会のために活動してみたい人の割合	35.3%	34.2%	103

□ 手作り地域力指標（地域資源数え上げ）プロジェクト

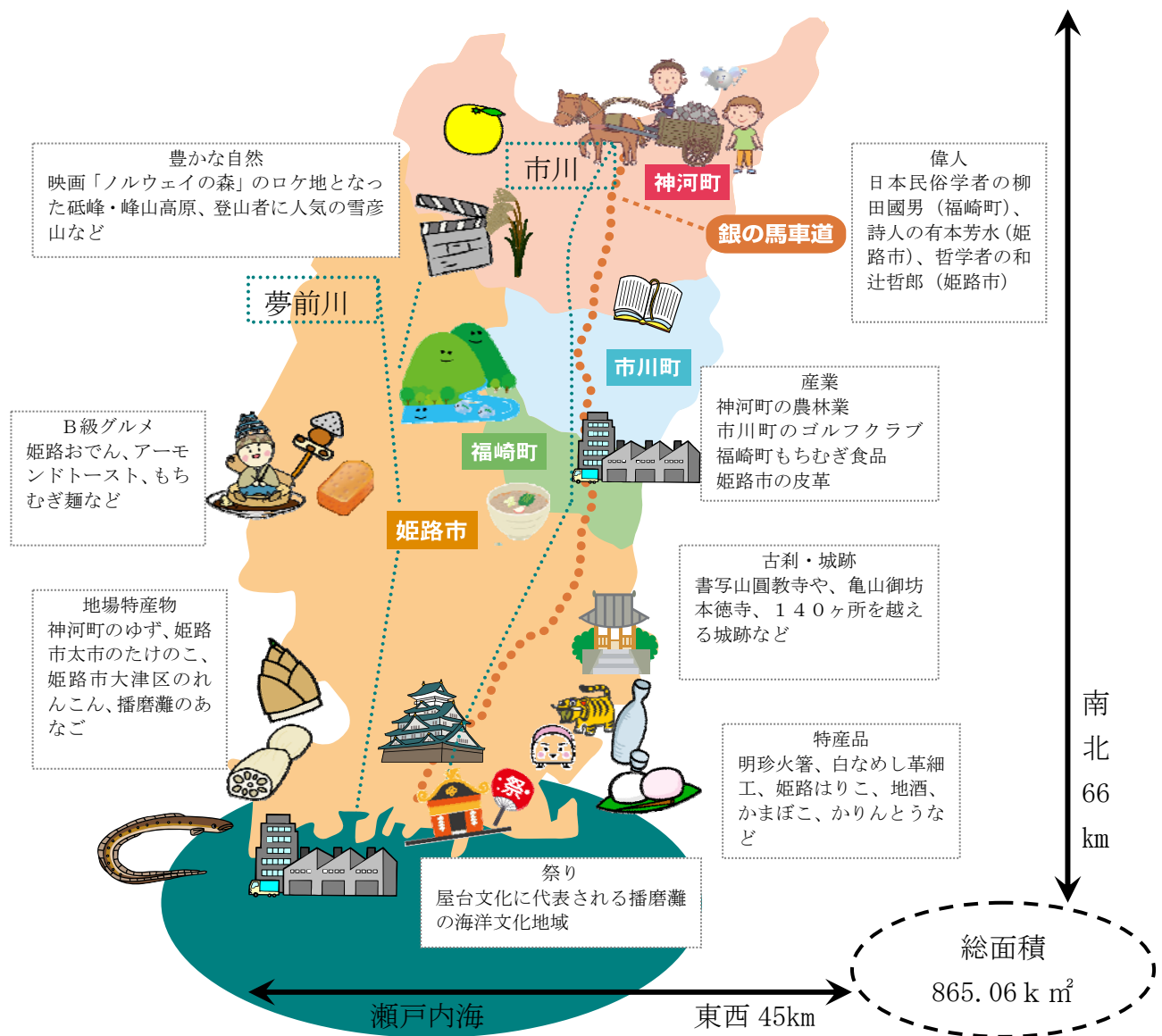
県民が主体となって、各地に潜在する地域資源の掘り起こしを行い、数え上げ、記録化することを通じて、地域の特性や強みをわかりやすく理解しやすい形で表現してゆきます。地域固有の“豊かさ”を示す指標となるとともに、地域資源の再発見から、新たな地域づくり活動につながる可能性も秘めています。

【例】中播磨地域で想定される手作り地域力指標

- B級グルメ（ご当地グルメ）の数
- あなご料理の数
- 祭りの数
- ロケが行われた映画の数
- 成牛皮革の全国シェア など



(資料：1) 中播磨地域のすがた



- 中播磨は、兵庫県南西部に位置する南北 66km、東西 45km に及ぶ地域で、総面積は 865.06 平方キロメートル、県土全体の 10.3% を占めています。
- 地域の大部分（74.8%）は耕地と林野となっている一方で、臨海部は播磨工業地帯を形成しており、美しい自然やたくましい産業活動にあふれる色彩豊かな地域です。
- 中播磨は、姫路市を拠点都市として、南北に連なる市川・夢前川沿いの河川流域軸と東西方向に伸びる臨海軸を骨格として成り立っていますが、特に南北軸は「銀の馬車道」として、古来よりこの地域の骨格軸として、歴史と文化と自然が重なる交流軸となっており、沿線には個性的な地域資源が多くあります。

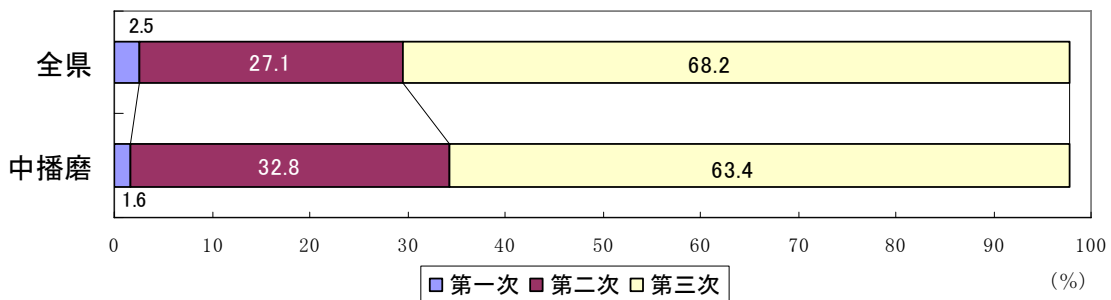
○ 平成 22 年 10 月 1 日現在 中播磨管内市町別人口

市町名	人数	構成比
姫路市	536,338	92.2%
神河町	12,296	2.1%
市川町	13,300	2.3%
福崎町	19,829	3.4%
合計	581,763	100%

(出展：平成 22 年国勢調査結果速報)

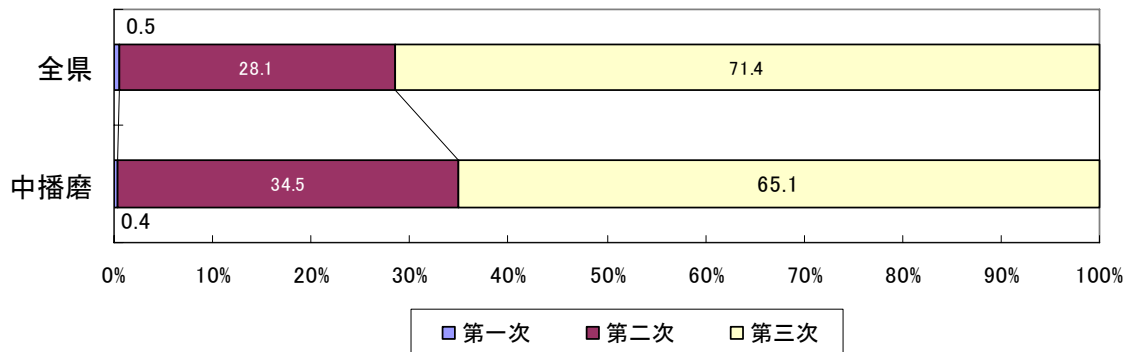
○ 産業別就業人口比率および製品出荷額の構成

<就業人口比率>



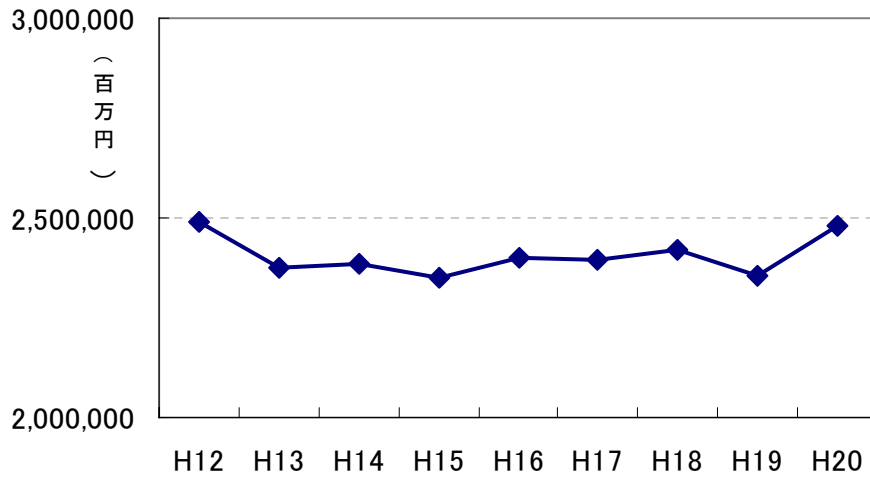
出展：国勢調査 (平成 17 年 10 月 1 日現在)

<製品出荷額比率>



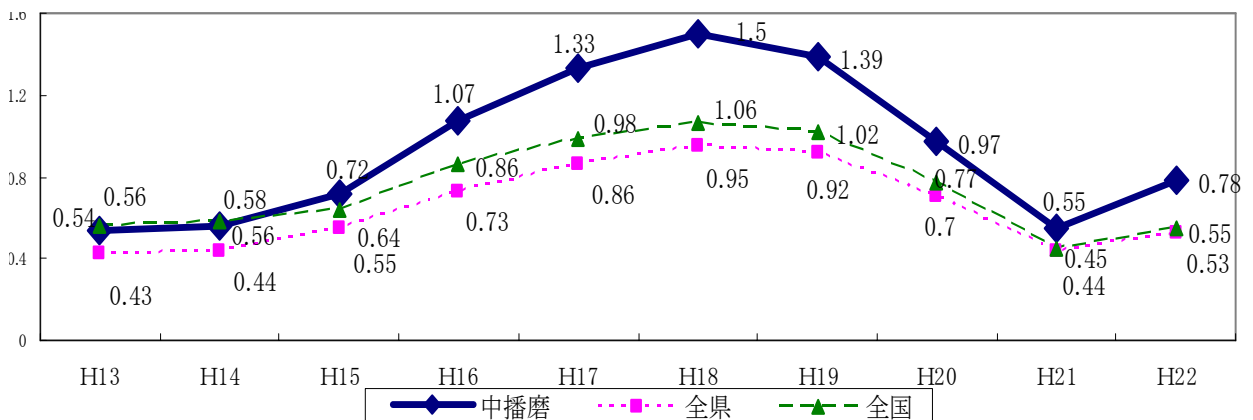
出展：兵庫県企画県民部「平成 20 年度市町民経済計算」

○中播磨地域内総生産額の推移



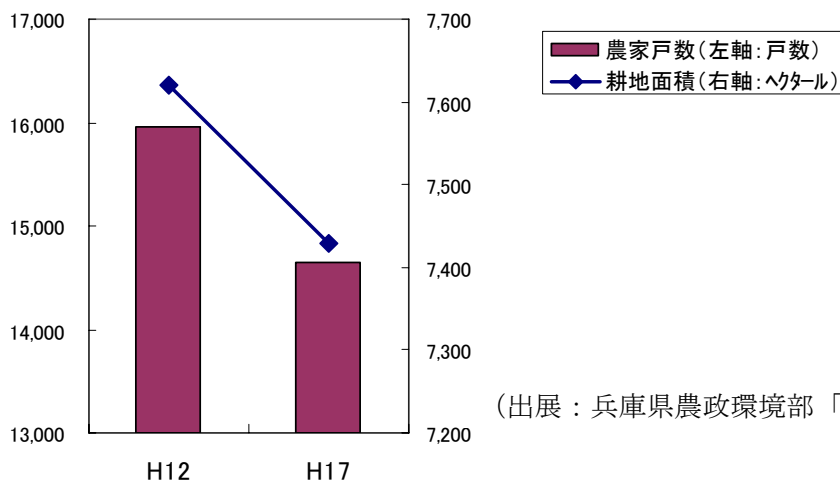
(出展：兵庫県企画県民部「平成 21 年度兵庫県民経済計算」)

○有効求人倍率の推移



(出展：厚生労働省兵庫労働局「月報ひょうご」。パートを含む)

○ 農家戸数および耕地面積の推移



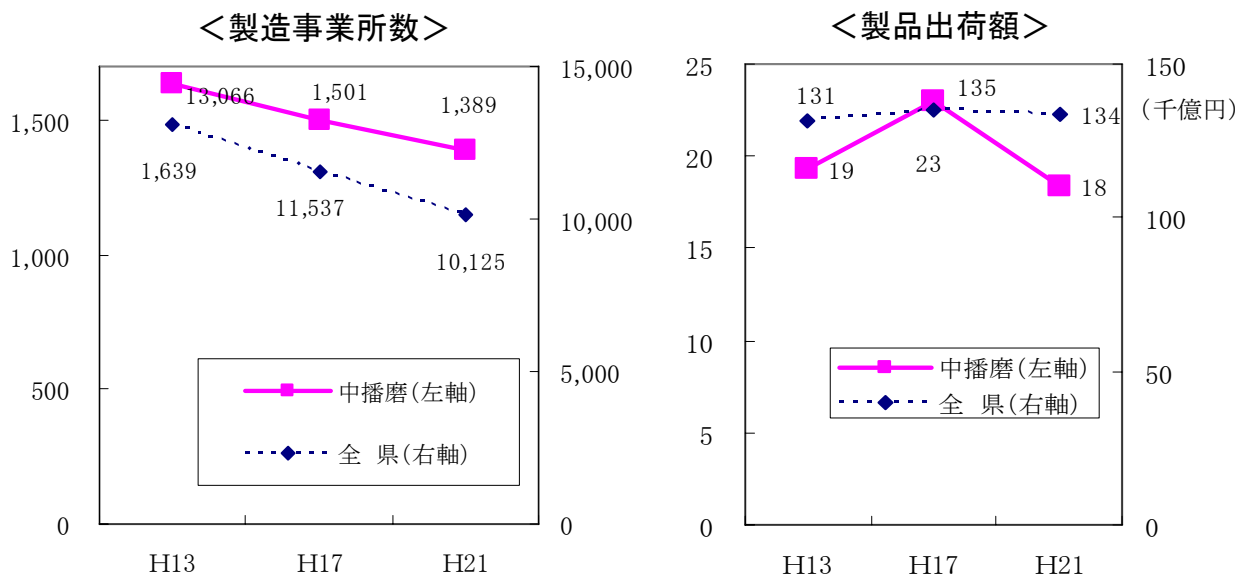
(出展：兵庫県農政環境部「農業センサス」)

○ 主要農水産物の生産高および全県に占める割合

区分	生産量	全県に占める割合
水稲(t)	17,950	9.4%
麦類(t)	1,396	23.6%
野菜(t)	9,726	3.4%
乳用牛(頭)	520	2.5%
肉用牛(頭)	4,174	7.1%
豚(頭)	1,050	5.2%
採卵鶏(千羽)	1,198	22.1%
漁獲量総量(t)	8,604	14.3%

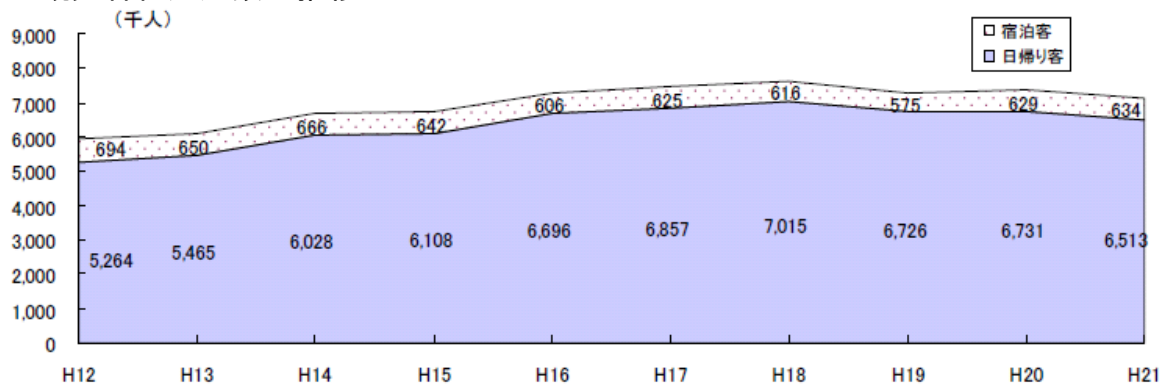
(出展：兵庫農林水産統計年報（平成 20 年～平成 21 年）)

○ 製造事業所数および製品出荷額の推移

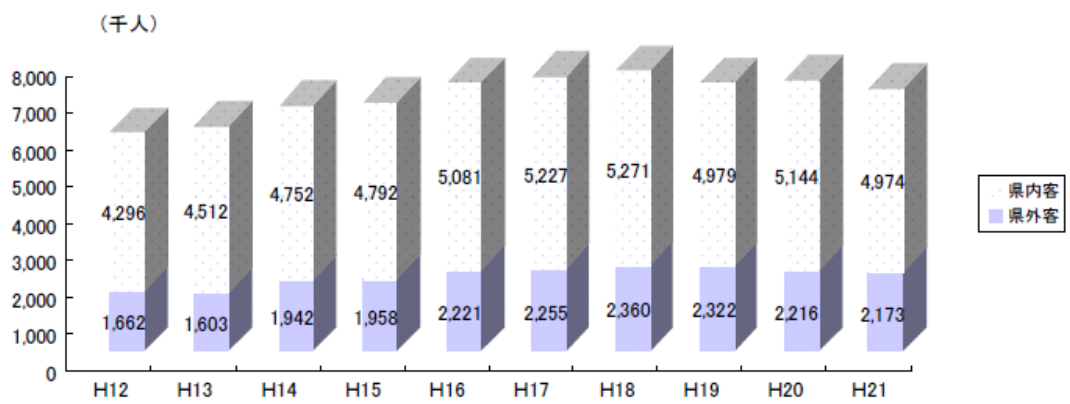


(出展：兵庫県企画管理部「工業統計調査結果報告」)

○ 観光客総入込数の推移



○ 県外・県内別入込数の推移



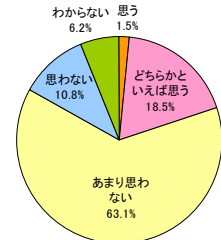
出展：兵庫県産業労働部「平成 21 年度観光客動態調査報告書」

(資料2) ビジョン委員会アンケートの結果概要

(1) 第1の夢：

「生きがいを持って暮らそう」(自己実現社会)

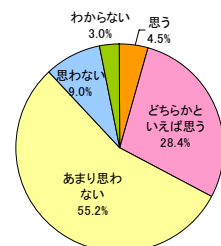
Q. 多様な学びと活躍の場が整うなど、「個人の能力や可能性が最大限に発揮できる社会」が実現していると思いますか？



(2) 第2の夢：

「人と人が創る豊かな人間関係を広げよう」(人の輪社会)

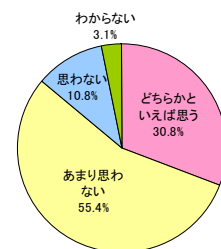
Q. 文化活動やボランティア等の地域活動に取り組むなど、「一人ひとりが主体的に行動している社会」が実現していると思いますか？



(3) 第3の夢：

「住み慣れた地域で支え合ってともに生きよう」 (安全安心社会)

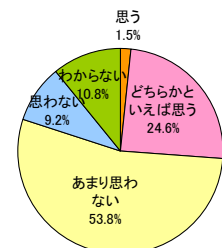
Q. 保健や医療が充実し、防犯や食の安全安心が確保されている「健康で安心して暮らせる社会」が実現していると思いますか？



(4) 第4の夢：

「人と自然の営みが調和した循環型社会をめざそう」 (環境王国)

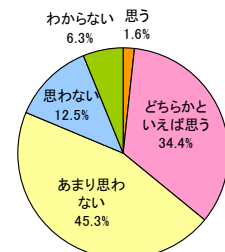
Q. 自然再生や地球環境の保全など「人と自然が調和した健康で快適な共生と循環の社会」が実現していると思いますか？



(5) 第5の夢：

「うるおいとにぎわいのある地域をつくろう」(日本の祭都)

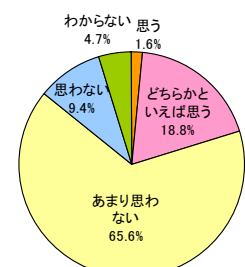
Q. 交通網の整備や都市農村交流など、「交流を育む基盤としくみが整った社会」が実現していると思いますか？



(6) 第6の夢：

「世界につながる創造的で活力ある社会をめざそう」 (世界の光都)

Q. 多彩な交流が広がる「個性豊かな都市やまちから世界へと交流が広がる社会」が実現していると思いますか？



(資料：3) 県民のみなさんからいただいたご意見

1 ビジョンの点検・見直しの経過の中でいただいたご意見

中播磨地域ビジョン委員会では、地域夢会議、兵庫みらいフォーラム、アンケート調査の実施、テーマ別意見交換会、未来を担う若いみなさんからの意見募集等を通じて、幅広い県民のみなさんからめざすべき中播磨地域の将来像に向けて多数の意見をいただくことができました。これらのご意見を、関連する現行ビジョンの“夢”ごとに整理しました。なお、いただいた意見のうち、複数の“夢”に共通して示唆している意見については、意見の後ろに○番号を付しています。

(1) “生きがいをもって暮らそう”（自己実現社会）に関して

現行ビジョン

- (1) 子どもが健やかに育ち「心・体・感性」を伸ばせる地域をめざそう
- (2) 女性が働きながら生き生きと暮らせる社会をめざそう
- (3) 高齢者は豊かな経験や能力を発揮しよう
- (4) 働きがいを追求する社会をめざそう
- (5) 住みなれたふるさとで誇りを持って暮らそう

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの意見】

- 先人の苦労が礎になって現在のまちがある。世代を越えた思いやりを育んでいきたい。(②)
- 親子の絆が薄れ、子ども達に思いやりの心が無くなってきている。親子の絆を深め、子どもたちに思いやりの心を育んできたい。(②)
- 収入には関係なく、ボランティア活動であったり、自分の能力や個性を生かせる機会や場が必要。(②)
- 高齢者・若者が自発的に地域活動に参加できる地域づくりが必要。(②、③)
- 自発的な地域活動を促すためには、地域通貨を発行するのもひとつの手段(②)
- 地域活動等に対して「将来介護券」を発行。(②、③)。
- 活動や活動に必要な手段をコーディネートする拠点づくりが必要(②、⑤、⑥)
- 気兼ねなく話し合える、自然体でたすけあえるような、豊かな人間関係が育まれる地域づくりが必要。(②)
- 地域でリタイアした人と子ども達を結ぶ“すごいおっちゃん、おばちゃん人材バンク”を創設する等、中高年者の体験や技能を地域に還元するしくみが必要。(②、③)
- 40～70代の地域住民が講師となって若い世代に子育てや地域活動を教えたり、若い世代が地域の中高齢者にIT等を教える「地域次世代塾」があれば。

(2)

- “してもらって当然” から “してあげる喜び” を親・子ども・学校みんなで考えていくことが大切。(2)
- 高齢であっても障害があっても、みんなが住みなれた地域で役割を持ってイキイキと暮らせる居場所や地域づくりが必要。(2、3)
- 今は少なくなったが、おせっかいおばさんや頑固おやじのような、人と人をつなぐことができる人材を地域に育成することが大事。(2)
- 自治会・婦人会・老人会・子供会など、縦割りをなくした、ボランティア主体の広域ネットワークを構築する必要がある。(2)
- 人材が生まれ、定着する “人材の宝庫・中播磨”・教育都市の構築。(2)
- リタイアした教育者や企業家等を子育て・教育リーダーとして招聘し、子育てしやすい環境を形成。(2)
- 子どもたちが心豊かに生き生き育ち合う地域にしたい。個性も大事だが、ともに育つ温かさを強調したい。(2)
- 働き方も大事でとても必要なことだが、保育環境の充実、安心して預けて働ける環境も重要である。(2)
- 高齢者は、ボランティアを中心とした活動にシフトして、仕事は若者に譲ろう。(2、3)
- 子どもを地域の人たちの温かい目で見守ったり支援することが大切。(2)
- 伝承文化を若い人に継承し “ふるさと大好き” と思える環境をつくっていくことが大切。(2、5、6)

(2) “人と人が創る豊かな人間関係を広げよう” (人の輪社会) に関して

現行ビジョン

- (1) だれにとっても住みやすいコミュニティをつくろう
- (2) 地域全体で子育てを支援しよう
- (3) ボランティア活動が広がる社会をめざそう
- (4) コミュニティとビジネスが結びつく地域をめざそう
- (5) 情報がつながるネットワーク社会をめざそう
- (6) 広域的な交通ネットワークを形成しよう

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの意見】

- 先人の苦労が礎になって現在のまちがある。世代を越えた思いやりを育んでいきたい。(1)
- 親子の絆が薄れ、子ども達に思いやりの心が無くなってきている。親子の絆

を深め、子どもたちに思いやりの心を育てていきたい。(①)

- 収入には関係なく、ボランティア活動であったり、自分の能力や個性を生かせる機会や場が必要。(①)
- 高齢者・若者が自発的に地域活動に参加できる地域づくりが必要。(①、③)
- 自発的な地域活動を促すためには、地域通貨を発行するのもひとつの手段(①)
- 地域活動等に対して「将来介護券」を発行。(①、③)。
- 活動や活動に必要な手段をコーディネートする拠点づくりが必要(①、⑤、⑥)
- 気兼ねなく話し合える、自然体でたすけあえるような、豊かな人間関係が育まれる地域づくりが必要。(①)
- 地域でリタイアした人と子ども達を結ぶ“すごいおっちゃん、おばちゃん人材バンク”を創設する等、中高年者の体験や技能を地域に還元するしくみが必要。(①、③)
- 40～70代の地域住民が講師となって若い世代に子育てや地域活動を教えたり、若い世代が地域の中高齢者にIT等を教える「地域次世代塾」があれば。(①)
- “してもらって当然”から“してあげる喜び”を親・子ども・学校みんなで考えていくことが大切。(①)
- 高齢であっても障害があっても、みんなが住みなれた地域で役割を持ってイキイキと暮らせる居場所や地域づくりが必要。(①、③)
- 今は少なくなったが、おせっかいおばさんや頑固おやじのような、人と人をつなぐことができる人材を地域に育成することが大事。(①)
- 自治会・婦人会・老人会・子供会など、縦割りをなくした、ボランティア主体の広域ネットワークを構築する必要がある。(①)
- 人材が生まれ、定着する“人材の宝庫・中播磨”・教育都市の構築。(①)
- リタイアした教育者や企業家等を子育て・教育リーダーとして招聘し、子育てしやすい環境を形成。(①)
- 子どもたちが心豊かに生き生き育ち合う地域にしたい。個性も大事だが、ともに育つ温かさを強調したい。(①)
- 働き方も大事でとても必要なことだが、保育環境の充実、安心して預けて働ける環境も重要である。(①)
- 高齢者は、ボランティアを中心とした活動にシフトして、仕事は若者に譲ろう。(①、③)
- 子どもを地域の人たちの温かい目で見守ったり支援することが大切。(①)
- 一人暮らしの存在そのものを考え、一人暮らしを減少するために“家族の絆”とか、子どもとしての意識向上を考える必要性がある。(③)

- 健康づくりは、一人では続かないことも、家族や地域ぐるみで活動すると継続しやすい。(③)
- 子どもの防犯防止の徹底など、地域全体でパトロールをしたり安全な環境をつくっていくことが大切。(③)
- 子どもたちが被害者となる事件も増えているので、家庭、学校、地域の連携が必要。(③)
- まだ知られていない播磨の魅力を発掘し、個性的な取り組みをしている人材を発掘し、笑顔と挨拶で、播磨の「おもてなしの心」を域外から来られた方に提供し、心地いい地域を目指したい。(⑤、⑥)
- 伝承文化を若い人に継承し“ふるさと大好き”と思える環境をつくっていくことが大切。(①、⑤、⑥)

(3) “住みなれた地域で支え合ってともに生きよう”（安全安心社会）に関して

現行ビジョン

- (1) 一人暮らし老人・要介護老人が安心して暮らせるまちづくりをしよう
- (2) 障害のある人とその親が安心し、生きがいを持って暮らせる社会をつくろう
- (3) 高齢者・障害のある人に優しいまちづくりを進めよう
- (4) 安心な医療ネットワークを確立しよう
- (5) 一人ひとりが健康づくりを進めよう
- (6) 防災・防犯・交通安全対策を徹底しよう

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの意見】

- 高齢者・若者が自発的に地域活動に参加できる地域づくりが必要。(①、②)
- 地域活動等に対して「将来介護券」を発行。(①、②)。
- 地域でリタイアした人と子ども達を結ぶ“すごいおっちゃん、おばちゃん人材バンク”を創設する等、中高年者の体験や技能を地域に還元するしくみが必要。(①、②)
- 高齢であっても障害があっても、みんなが住みなれた地域で役割を持ってイキイキと暮らせる居場所や地域づくりが必要。(①、②)
- 一人暮らしの存在そのものを考え、一人暮らしを減少するために“家族の絆”とか、子どもとしての意識向上を考える必要性がある。(②)
- 健康づくりは、一人では続かないことも、家族や地域ぐるみで活動すると継続しやすい。(②)
- 子どもの防犯防止の徹底など、地域全体でパトロールをしたり安全な環境をつくっていくことが大切。(②)

- 子どもたちが被害者となる事件も増えているので、家庭、学校、地域の連携が必要。(②)
- 高齢者は、ボランティアを中心とした活動にシフトして、仕事は若者に譲ろう。(①、②)

(4) “人と自然の営みが調和した循環型社会をめざそう”（環境王国）に関して

現行ビジョン

- (1) ごみ発生を抑制する循環型「ごみゼロ社会」をつくろう
- (2) 一人一人が環境意識を高め、主体的な活動を進めよう
- (3) 市川、夢前川、揖保川、千種川水系などの美しい川、美しい播磨灘づくりを進めよう
- (4) 子どもたちのころに遊んだ美しい森づくりを進めよう
- (5) 自然環境に調和した農林水産業と活気のある農産漁村をつくろう

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの意見】

- 化石燃料の大量消費で環境に大変な負担をかけ続けている。ライフスタイルをみなおし、自然にやさしい社会を築きたい。
- 化石燃料を使わない自転車のまちづくりを推進していきたい。
- 海があるのに、日常生活のなかでふれる機会は少ない。海という自然にふれ、海からまちをみなおし、自然との関わりを考えていく必要がある。
- 大量消費社会のなか、ものや資源のありがたみを忘れかけている。自給自足に近いかたちで、自然との共生を考えることのできる体験や機会づくりも必要。
- 畜産家の学生や農業高校生などの若者が集まる、魅力的な中山間地域づくりが求められる。
- 中山間で肥育した牛や乳製品のブランド化（姫ビーフ、銀馬車ミルク等）を行い、付加価値の高い農業を行う。
- 牛の糞尿を隣接の農地で有機肥料として使用し、循環型の総合有機農業を展開する。
- 地元の間伐材等で宿泊施設をつくり、全国の学生に開放する。
- インターネット等を利用して、肥育状況などリアルタイムで農業の情報を全国に向けて発信できれば。
- 排気ガスで汚さない中播磨地域のエコスタイルを確立する。
- 耕作放棄地を活用し、農作業を通じた交流および健康づくりを展開する。
- 地域内外から農業に興味のある中高年や、自然環境に親しみたい子ども・親たちの参加が促進される農業ができれば。
- 地元パティシエと農業従事高齢者の連携を進め、「地産地消地技」にこだわっ

た菓子を開発。

- うまし・たのし食料自給国「播磨國」の再興。
- 山川海で保全活動を行う担い手を育成。一定の収入を得られるようにする。
- 森林の間伐や清掃といった保全活動のほか、地場の農作物のイベントを開催する等、森林と食に関心のある都市住民と地元の交流を促すことが必要。
- 川上と川下の住民がそれぞれつながり、山川海を一体として管理する社会的なしくみが構築できれば。
- 「一般家庭ゴミゼロ」の地域づくりによる中播磨版循環型社会の実現。
- ゴミ処理の有料化とあわせて、ペットボトルや缶などを用いる企業と連携し、デポジット制が徹底されればよい。
- レジ袋の有料化が義務づけられている「中播磨マイバック 100%作戦」が展開。
- 自然の中で子ども達に遊び方を教える大人を「川大将」、「山大将」に認定。子どもたちが気軽に遊べる安全な山や川を地域の手で取り戻す。
- 海から里、山に通じる馬車道沿線の地場食品を「銀の馬車道ブランド」として、安全・安心・美味な付加価値の高い商品として開発。
- 姫路港から主に中国市場に向けた積極的な輸出ルートを開拓、推進する。(⑤、⑥)
- 食育について考え、子ども自らが「食」への意識を持てるような関わり、環境を考えることが必要。
- 観光客が増えたのにポイ捨て等によりまちが美しくない。みんなが自分でまちをきれいにする取り組みをすすんで行える、きれいなまちづくりが必要。(⑤、⑥)
- 公園や緑がまちなかにもっと増えればよいと思う。(⑤)
- 瀬戸内海と北部の山々、そこを源流とするいくつもの川の自然を取り込んだ滞在型の観光を可能にしたい。(⑤、⑥)
- 古民家でのショートステイや子どものいなくなった農業世帯へのホームステイを促進する。(⑤、⑥)

(5) “うるおいとにぎわいのある地域をつくろう”（日本の祭都）に関して

現行ビジョン

- (1) 個性とにぎわいのある中心市街地をつくろう
- (2) 暮らしやすい快適な居住空間をつくろう
- (3) 芸術・文化・スポーツ施設の活用を進めよう
- (4) 開かれた西播磨文化を創造しよう
- (5) 伝統の祭りや新しいイベントを展開しよう
- (6) 資源を活かした滞在型観光を推進しよう

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの意見】

- 姫路港エリアを中心に重工業がさかんで、それを支える技術をもった中小企業がたくさんあつまる地域。これを強みにしていかないと。(⑥)
- 地域の産業を広くアピールするとともに、地域内外の連携による新たな産業を興し、雇用を増やしていきたい。(⑥)
- 姫路城をはじめとする観光資源が豊富な地域なので、面の観光を促進し、観光関連産業を発展させるべき。(⑥)
- 姫路城単体でなく、城下町としてとらえてまちづくりを行う必要がある。
- 瀬戸内海と北部の山々、そこを源流とするいくつもの川の自然を取り込んだ滞在型の観光を可能にしたい。(④、⑥)
- 姫路港は海で世界のまちにつながっている。地球全体につながるまちづくりを考えていきたい。(⑥)
- それぞれの地域に伝承や風習やアイデンティティがある。これらを末永く広く伝えていきたい。(⑥)
- 古民家でのショートステイや子どものいなくなった農業世帯へのホームステイを促進する。(④、⑥)
- 全国のお城案内ボランティアが一同に会した「お城案内自慢大会」を開催し、ボランティアの資質アップとさらなる集客が促進できれば。(⑥)
- 「銀の馬車道」が世界遺産になり、地域産業、伝統文化が全国発信されている。(⑥)
- 道の世界遺産「紀伊山地・熊野古道」、「スペイン・巡礼の道」との連携をはかり、世界に向けた交流の展開を図る。(⑥)
- 「石見銀山」、「ランメルスベルク鉱山（ドイツ）」等の鉱山の世界遺産と連携し、文化交流や伝統産業交流が繰り広げられている。(⑥)
- 「姫路城」と「銀の馬車道」が連携し、新たな観光ルートが設定されたり、伝統文化や産業・食の情報発信がされることにより、地域が活性化する。(⑥)
- 平成の大合併により各市町の中心市街地が分散した形になっている。商・住・遊・ビジネスの集積を促し、空き店舗対策、魅力ある商店街づくりに取り組むべき。(⑥)
- 商店街にシャッターが増えたのが残念。いろいろな使い方をして、町に活気が出ればよいと思う。(⑥)
- 夜の姫路城、広峰から見る夜景など、あまり有名でないけどすばらしいものが姫路にはたくさんある。こういうのが有名になり、町全体が活気づけば。(⑥)
- 姫路城が世界文化遺産登録された後、観光客がぐっと多くなり、まち全体に活気があふれるようになった。この流れがずっと続けば。(⑥)
- 外国人の観光客が多くなったのに、案内板等が意外にない。外国人のみなさ

- んにも過ごしやすいまちづくりがすすめば。(⑥)
- 伝承文化を若い人に継承し“ふるさと大好き”と思える環境をつくっていくことが大切。(①、②、⑥)
 - 子どもでも、外国人の人たちの役に立てる機会が増えれば。
 - 活動や活動に必要な手段をコーディネートする拠点づくりが必要(①、②、⑥)
 - 現在の播磨を代表するお祭りを内外にPRし、播磨の空気に触れていただくのは良い事だと思う。(⑥)
 - まだ知られていない播磨の魅力を発掘し、個性的な取り組みをしている人材を発掘し、笑顔と挨拶で、播磨の「おもてなしの心」を域外から来られた方に提供し、心地いい地域を目指したい。(②、⑥)
 - 異文化交流は外国との交流にはとどまらないと考える。漁村と山村の交流、都市と過疎地の交流も大きな意味で異文化の交流ではないか。
 - 国際化に対応するには、播磨の特色を出し、個性的で、吸引力のある地域になるような取り組みをすべき。(⑥)
 - 姫路港から主に中国市場に向けた積極的な輸出ルートを開拓、推進する。(④、⑥)
 - 食育について考え、子ども自らが「食」への意識を持てるような関わり、環境を考えることが必要。
 - 観光客が増えたのにポイ捨て等によりまちが美しくない。みんなが自分でまちをきれいにする取り組みをすすんで行える、きれいなまちづくりが必要。(④、⑥)
 - 公園や緑がまちなかにもっと増えればいいと思う。(④)
 - 東アジアに開かれた低炭素特区・新ビジネス特区都市の形成(④、⑥)
 - 姫路菓子博の成果を礎に世界に通じるスイーツづくりを展開。(⑥)
 - 姫路港を核とした「東アジアー中播磨新ビジネス特区」を形成し、東アジアの環境産業などの立地・貿易を促進する。(⑥)
 - 外国人が増えた。実際に接する前はコワイけど、交流するとすごくいろいろ学べて楽しいし、自分の世界が広がる。みんながこういう気持ちになれば。
 - 中播磨地域1市3町の地域資源をつなぐ銀の馬車道をもっと活用してゆこう。(⑥)

(6) “世界につながる創造的で活力ある社会をめざそう”（世界の光都）に関して

現行ビジョン

- (1) 企業の創造的活動を支援し、企業家を応援しよう
- (2) テクノポリスを世界一の先端技術集積にしよう
- (3) 産業基盤の整備を進めよう
- (4) 播磨科学公園都市のまちづくりを進めよう
- (5) 社会貢献する企業を応援しよう
- (6) 世界につながり、国際交流の盛んな地域づくりをしよう

【夢会議・各種フォーラム・アンケートでの意見】

- 姫路港エリアを中心に重工業がさかんで、それを支える技術をもった中小企業がたくさんあつまる地域。これを強みにしていかないと。(⑤)
- 地域の産業を広くアピールするとともに、地域内外の連携による新たな産業を興し、雇用を増やしていきたい。(⑤)
- 姫路城をはじめとする観光資源が豊富な地域なので、面の観光を促進し、観光関連産業を発展させるべき。(⑤)
- 瀬戸内海と北部の山々、そこを源流とするいくつもの川の自然を取り込んだ滞在型の観光を可能にしたい。(④、⑤)
- 姫路港は海で世界のまちにつながっている。地球全体につながるまちづくりを考えていきたい。(⑤)
- それぞれの地域に伝承や風習やアイデンティティがある。これらを末永く広く伝えていきたい。(⑤)
- 古民家でのショートステイや子どもがいなくなった農業世帯へのホームステイを促進する。(④、⑤)
- 全国のお城案内ボランティアが一同に会した「お城案内自慢大会」を開催し、ボランティアの資質アップとさらなる集客が促進できれば。(⑤)
- 「銀の馬車道」が世界遺産になり、地域産業、伝統文化が全国発信されている。(⑤)
- 道の世界遺産「紀伊山地・熊野古道」、「スペイン・巡礼の道」との連携をはかり、世界に向けた交流の展開を図る。(⑤)
- 「石見銀山」、「ランメルスベルク鉱山（ドイツ）」等の鉱山の世界遺産と連携し、文化交流や伝統産業交流が繰り広げられている。(⑤)
- 「姫路城」と「銀の馬車道」が連携し、新たな観光ルートが設定されたり、伝統文化や産業・食の情報発信がされることにより、地域が活性化する。(⑤)
- 平成の大合併により各市町の中心市街地が分散した形になっている。商・住・遊・ビジネスの集積を促し、空き店舗対策、魅力ある商店街づくりに取

- り組むべき。(⑤)
- 商店街にシャッターが増えたのが残念。いろいろな使い方をして、町に活気が出ればよいと思う。(⑤)
 - 夜の姫路城、広峰から見る夜景など、あまり有名でないけどすばらしいものが姫路にはたくさんある。こういうのが有名になり、町全体が活気づけば。(⑤)
 - 姫路城が世界文化遺産登録された後、観光客がぐっと多くなり、まち全体に活気があふれるようになった。この流れがずっと続けば。(⑤)
 - 外国人の観光客が多くなったのに、案内板等が意外にない。外国人のみなさんにも過ごしやすいまちづくりがすすめば。(⑤)
 - 伝承文化を若い人に継承し“ふるさと大好き”と思える環境をつくっていくことが大切。(①、②、⑤)
 - 子どもでも、外国人の人たちの役に立てる機会が増えれば。
 - 活動や活動に必要な手段をコーディネートする拠点づくりが必要(①、②、⑤)
 - 現在の播磨を代表するお祭りを内外にPRし、播磨の空気に触れていただくのは良い事だと思う。(⑤)
 - まだ知られていない播磨の魅力を発掘し、個性的な取り組みをしている人材を発掘し、笑顔と挨拶で、播磨の「おもてなしの心」を域外から来られた方に提供し、心地いい地域を目指したい。(②、⑤)
 - 異文化交流は外国との交流にはとどまらないと考える。漁村と山村の交流、都市と過疎地の交流も大きな意味で異文化の交流ではないでか。
 - 国際化に対応するには、播磨の特色を出し、個性的で、吸引力のある地域になるような取り組みをすべき。(⑤)
 - 姫路港から主に中国市場に向けた積極的な輸出ルートを開拓、推進する。(④、⑤)
 - 観光客が増えたのにポイ捨て等によりまちが美しくない。みんなが自分でまちをきれいにする取り組みをすすんで行える、きれいなまちづくりが必要。(④、⑤)
 - 東アジアに開かれた低炭素特区・新ビジネス特区都市の形成(④、⑤)
 - 姫路菓子博の成果を礎に世界に通じるスイーツづくりを展開。(⑤)
 - 姫路港を核とした「東アジアー中播磨新ビジネス特区」を形成し、東アジアの環境産業などの立地・貿易を促進する。(⑤)
 - 外国人が増えた。実際に接する前はコワイけど、交流するとすごくいろいろ学べて楽しいし、自分の世界が広がる。みんながこういう気持ちになれば。
 - 中播磨地域1市3町の地域資源をつなぐ銀の馬車道をもっと活用してゆこう。(⑤)

2 ビジョンの実現に向けた戦略を検討する経過の中でいただいたご意見

中播磨地域ビジョン委員会では、新しい地域ビジョンの実現に向け、県民自らが取り組むべき取組について、地域夢会議の場を活用し、地域のみなさんと幅広い議論を行いました。検討過程の中で出てきた主なご意見をご紹介します。

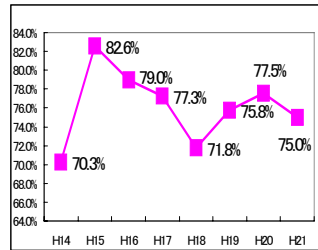
地域の夢(ビジョン)	内容
希望が育つ中播磨 ～ 子どもが元気に育つ、 つながりのある 地域をつくろう ～	顔見知りを増やす、地域の人々とのコミュニケーションをとる
	あいさつ運動、登下校時の声かけ
	保育園、幼稚園での見守り等、高齢者の方と子どもがふれあえる機会づくり
	子供会活動を活発にさせる
	思いやり運動を展開する
	学童保育の延長時間支援(6時までには終わってしまうのでその後少し預かりる)
	地域の公民館を拠点に活動を組む
	地域の人たちでパトロールをする
	本の読み聞かせ
	地域にある文化遺産をめぐる
	祭り、盆踊りに参加をつのる活動を盛り上げる
	姫路城の文化や歴史をしっかりと教える
	地域活動(子供会行事、土手の手入れやクリーン作戦等)に子ども活躍の場を増やす
	情報共有の場を設ける
	小学校と地域と一緒にボランティア活動をする
	地域で子ども達もできる地域活性活動をイベントとして企画する。里山整備など
	地域宣伝の俳句を作り発表する
	子どもと大人が参加する事業を行う
子供会と連携して、夢や生きがいについて語り合えたり体験できるイベントを考える	
安全安心中播磨 ～ みんなが安心して 暮らせる地域をつくろう ～	地域の人たちでパトロールをする(民間交番の立ち上げ)
	散歩をしている高齢者の方にすすんであいさつする
	安否確認等近所でのネットワークを作る
	道路・建物のユニバーサルデザイン化
	一人暮らしの方についてあらかじめ確認しておく、老人住民の住居のマップ化
	地域の方の(校区単位)できること人材バンクを作る
	障がい者に積極的に話かける
	障がい者施設の授産品を買いみんなに伝える
	街のバリアを探す→解決策
	障がいについて知る学習会の開催
	家の玄関、門の点灯をする(夜間の道を明るくするため)
	一人暮らしや老人住まいのまわりを気を付ける
	①地域のスポーツ大会②事務所(福祉)の行事に参加する
	地域での防災訓練等に積極的に参加する
	危険な所やこわれやすい家等を調査マップ化、危険な場所を地域で修理・改善する
	防災・防犯訓練に参加する
	防災・防犯のため地域見回り隊をつくる
	各団体で情報を共有する

地域の夢(ビジョン)	内容
<p>自然豊かな中播磨 ～ 自然環境の営みを大切に 地域をつくろう ～</p>	包装が少ない物を選んで買う、買物袋を持っていく
	職場まで電車で通う。可能な限り、自動車を使わず歩く、自転車を使う
	生ゴミはコンポストに入れ堆肥をつくる。生ごみの処理機を自治会単位で設置
	エコキャップ、空き缶のつめを集める
	自転車に乗りやすい道をつくる
	環境活動として地元小学校や会社に出前授業を行う
	デポジット式の自販機をスーパー、コンビニへ要望する
	エコバック・マイはし・マイカップ
	夜の自然を楽しむ。最低限の電気のみで夜の音の中で自然を感じる
	田畑を荒らすシカのお肉をうまく利用する方法を考える
	里山の保全(ササを刈る・竹を切る・間伐をする)、ホタルの飼育などのグループをつくる。
	姫路の湾沿をBeachに。芝を植え、シャワーを設置
	夜の自然を楽しむ。最低限の電気のみで、町内・家族単位で時間を決めて取り組む
	小・中学校で山・川・海などその地域校区ごとに近い山川海のゴミ拾いをし、子どもの頃からゴミを捨てない良心をやしなう
	EM菌などで川や池の浄化、堆肥づくりや有機野菜づくり
	農作物や棚田米をブランド化する。そして付加価値を加えて販売する
	地域ぐるみで減農薬のブランド米をつくる
	自治会単位で営農組織を作り、みんなで助け合う
	共同作業で放棄田をなくす、田・畑を借りたい人に貸し出す
	貸し農園を運営し、都市と農村の人々の交流継続のきっかけをつくる
地産地消のネットワークシステムを整備する	
<p>元気交流中播磨 ～ にぎわいと交流の 元気な地域をつくろう ～</p>	フォーラムやシンポジウムを開催し、多くの人が課題と情報を共有できる場を増やし、交流する
	銀の馬車道通貨を作り、銀の馬車道の商店や特産品を買う人を促進する仕組みをつくる
	中播磨地域の祭りを季節を通してスタンプラリーを実施、「ザ祭りin中播磨」の開催
	中高年向けの登山コースを紹介。EX砥堀～峰山高原、笠形山～温泉
	山登りの推進、山登りのポイント制(情報誌にて)、家族単位で取り組む(+健康)
	メインとなる観光スポットの周辺やアクセス経路の立ち寄り、お勧めスポットのアピール
	外国人観光客との交流の場をつくる
	姫路城内に様々な屋台を置く。地元住民も訪れる活気ある姫路城に
	お城サミットを開く。古い文化に関連したことが掘り起こされ発達する
	今すでに注目されている地域を結んでウォーキング大会をする
	あなごフォーラムを開催し、瀬戸内産のあなごのおいしさを発信。播磨灘の魚介類の紹介
	調理専門学校などの協力を得て地元の名産品を使って創作料理のプロデュース
	自分の知り合いに中播磨の良いところを伝えていく
	特産物・観光資源の把握
	まちの語りべを増やす
	会社等のHPで地域の歴史や施設を紹介
	がんばっている企業・産業をPRするリストづくり
	新規就農者や社会企業家を応援する基金を集め、支援する
	産業ツーリズムの開発と実施

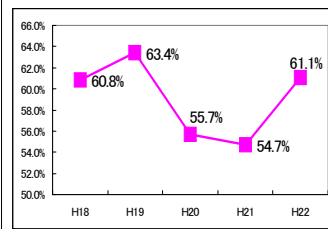
〔資料：４〕 県民意識調査（中播磨地域）の結果一覧

〔自己実現社会〕 生きがいを持って暮らそう

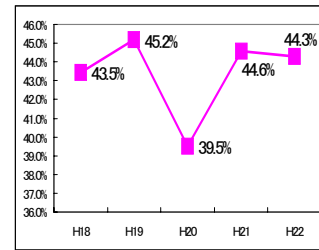
体験学習が子どもの成長に役立つと思う人の割合



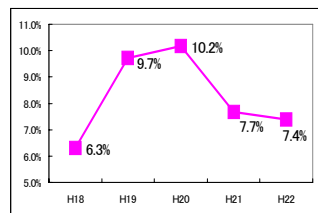
住んでいる地域の子どもは伸び伸びと育てていると思う人の割合



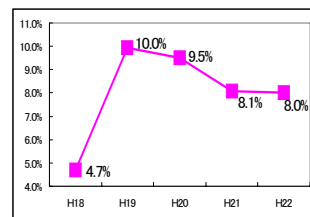
住んでいる地域の高齢者はいきいきと暮らしていると思う人の割合



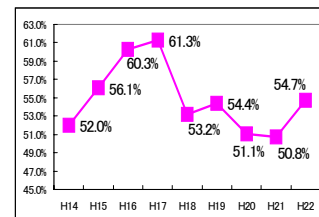
性別や年齢を問わず意欲のある人が働きやすい環境が整っていると思う人の割合



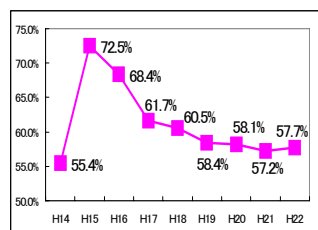
企業は子育て支援に積極的だと思う人の割合



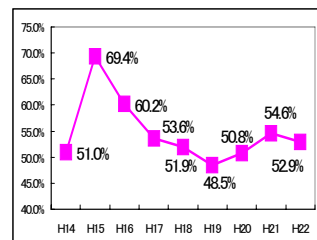
しごとと自分の生活の両立ができていると思う人の割合



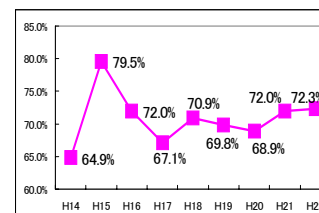
自分のしごとにやりがいを感じる人の割合



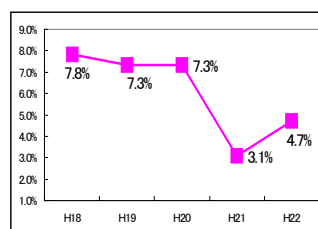
住んでいる地域に誇りや愛着を感じる人の割合



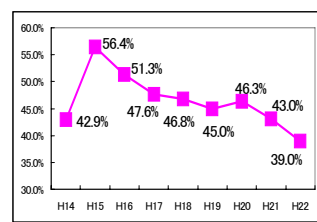
住んでいる家に満足している人の割合



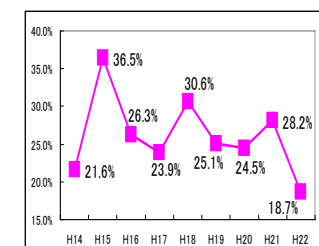
若者が希望を持てる社会だと思う人の割合



しごとを通じて技術や能力が高まっていると感じる人の割合

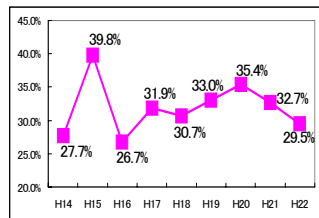


地域に自分の活躍の場がある人の割合

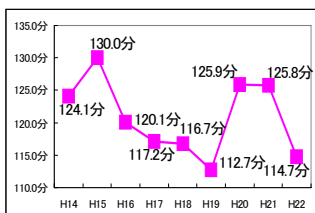


【人の輪社会】 人と人が創る豊かな人間関係を広げよう

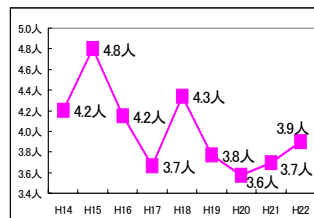
子育てについて地域で支え合う雰囲気があると思う人の割合



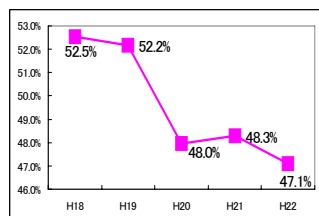
平日に家族で話をする時間



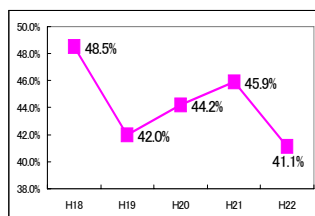
名前（ニックネームを含む）を知っている近所の子ども数



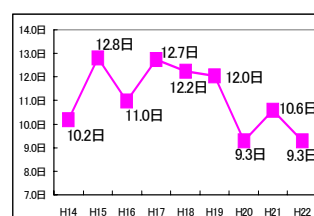
地域の行事によく参加する人の割合



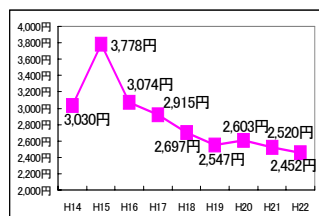
地域の異なる世代の人とつきあいがある人の割合



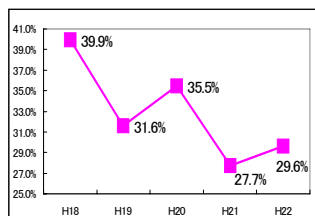
地域活動やボランティア活動のために使ってもよいと思う日数（年間）



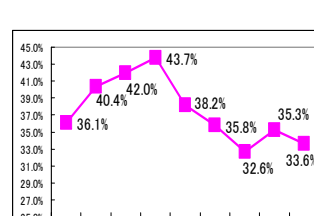
地域活動やボランティア活動のために負担してもよいと思う金額（年間）



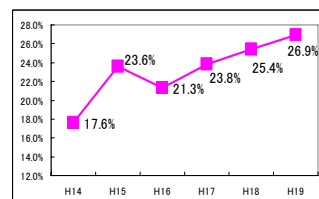
地域活動やボランティア活動をしている人の割合



ボランティアなどで社会のために活動してみたい人の割合



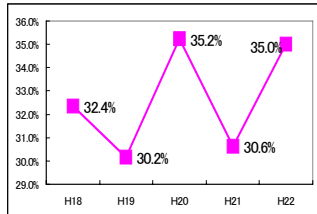
インターネットの普及で自分の生活が豊かになったと思う人の割合



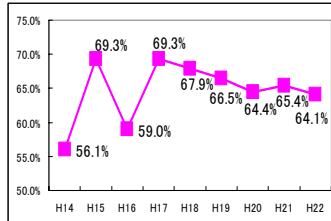
[安心安全社会]

住みなれた地域で支え合ってともに生きよう

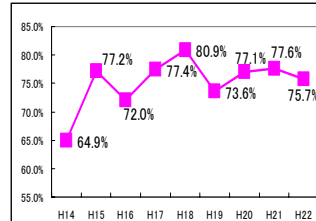
住んでいる地域は高齢者や障害者にも暮らしやすいと思う人の割合



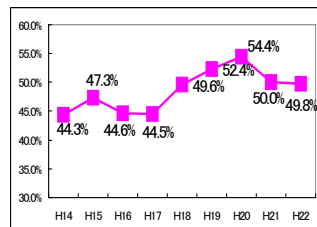
かかりつけの医者がある人の割合



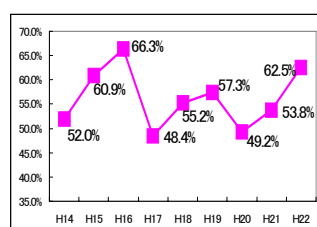
災害時の避難所を知っている人の割合



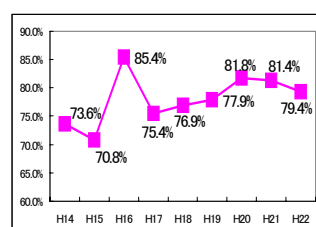
夜9時以降に住んでいる地域を安心して歩けると思う人の割合



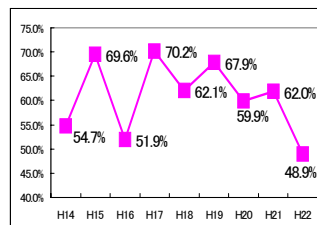
災害に対して住んでいる地域は安全だと思う人の割合



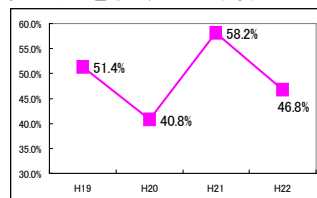
老後に不安を感じる人の割合



健康づくりに取り組んでいる人の割合



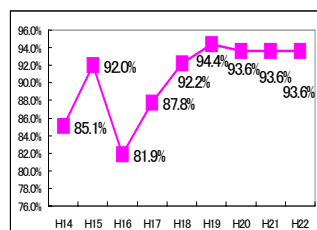
週1日以上運動・スポーツ（通勤途上に意識的にウォーキングをする場合なども含む）を行う人の割合



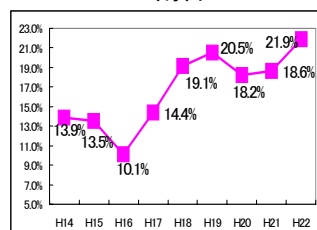
[環境王国]

人と自然の営みが調和した循環型社会をめざそう

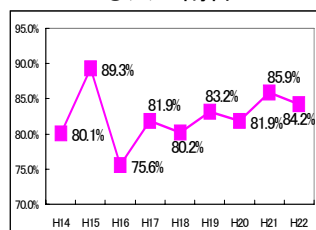
ごみの分別やリサイクルに協力している人の割合



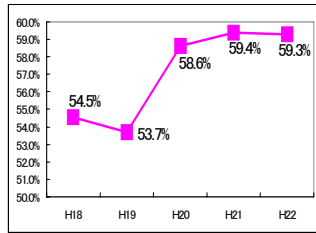
身近な環境のことを知る仕組みが整っていると思う人の割合



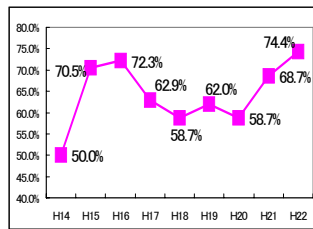
電気のムダ使いに気をかけるなど、環境に配慮している人の割合



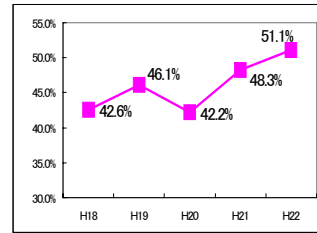
製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいく人の割合



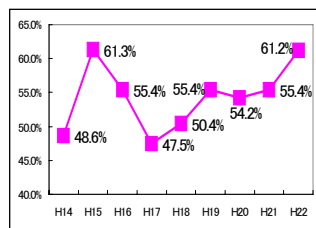
食べ物や飲み水は安心だと思ふ人の割合



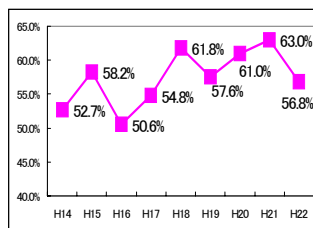
住んでいる地域の自然環境は守られていると思ふ人の割合



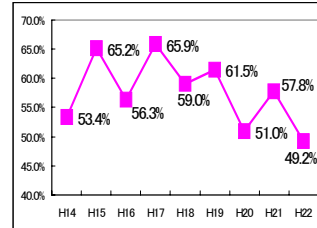
住んでいる地域はきれいだと思う人の割合



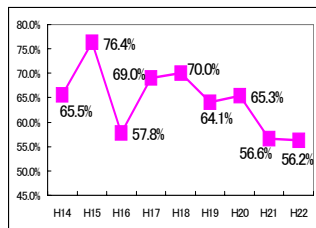
地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合



自然を守るためなら生活が不便でもよいと思ふ人の割合

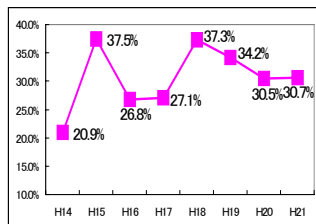


身近に自然とふれあえる場がある人の割合

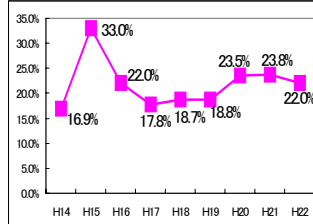


【日本の祭都】 うるおいとにぎわいのある地域をつくろう

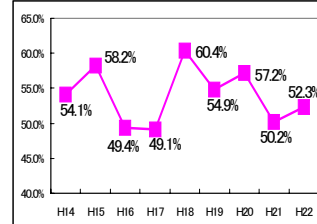
自分の地域にある公共施設をよく利用する人の割合



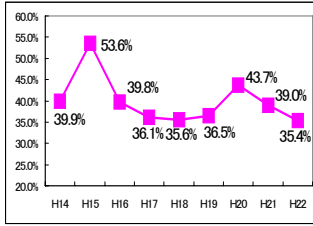
住んでいる地域に観光などの訪問客が増えていると思ふ人の割合



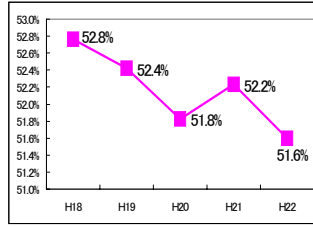
近所に子どもの遊び場や人々の憩いの場がある人の割合



地域の風土や文化について
知っている人の割合

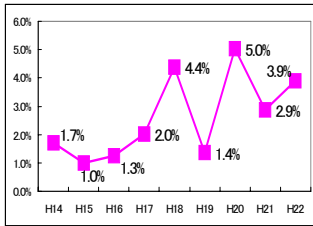


自慢したい地域の風景や名
所がある人の割合

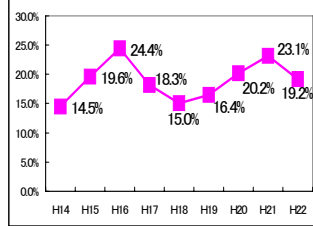


[世界の光都] 世界につながる創造的で活力のある社会をつくろう

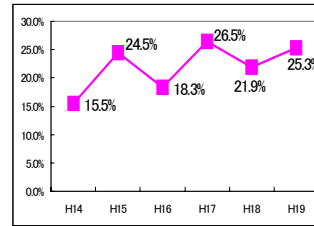
自分にあった職業への転職
がしやすいと思う人の割合



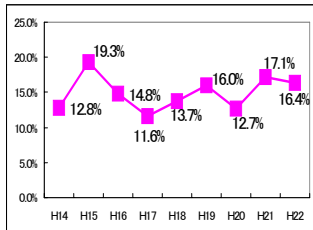
住んでいる地域は新しい事
業をおこすのに魅力的だと
思う人の割合



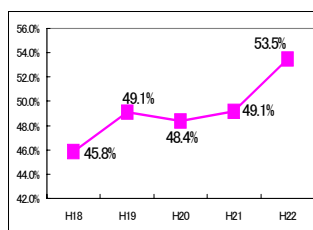
外国人と直接に交流したこ
とがある人の割合



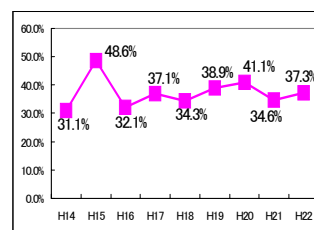
住んでいる地域の商店街や
駅前に活気があると思う人
の割合



住んでいる地域の公共交通
は便利だと思う人の割合



外国の文化に触れて感動し
たことがある人の割合



(資料：5) 中播磨地域経営プログラム体系 (平成23年版)

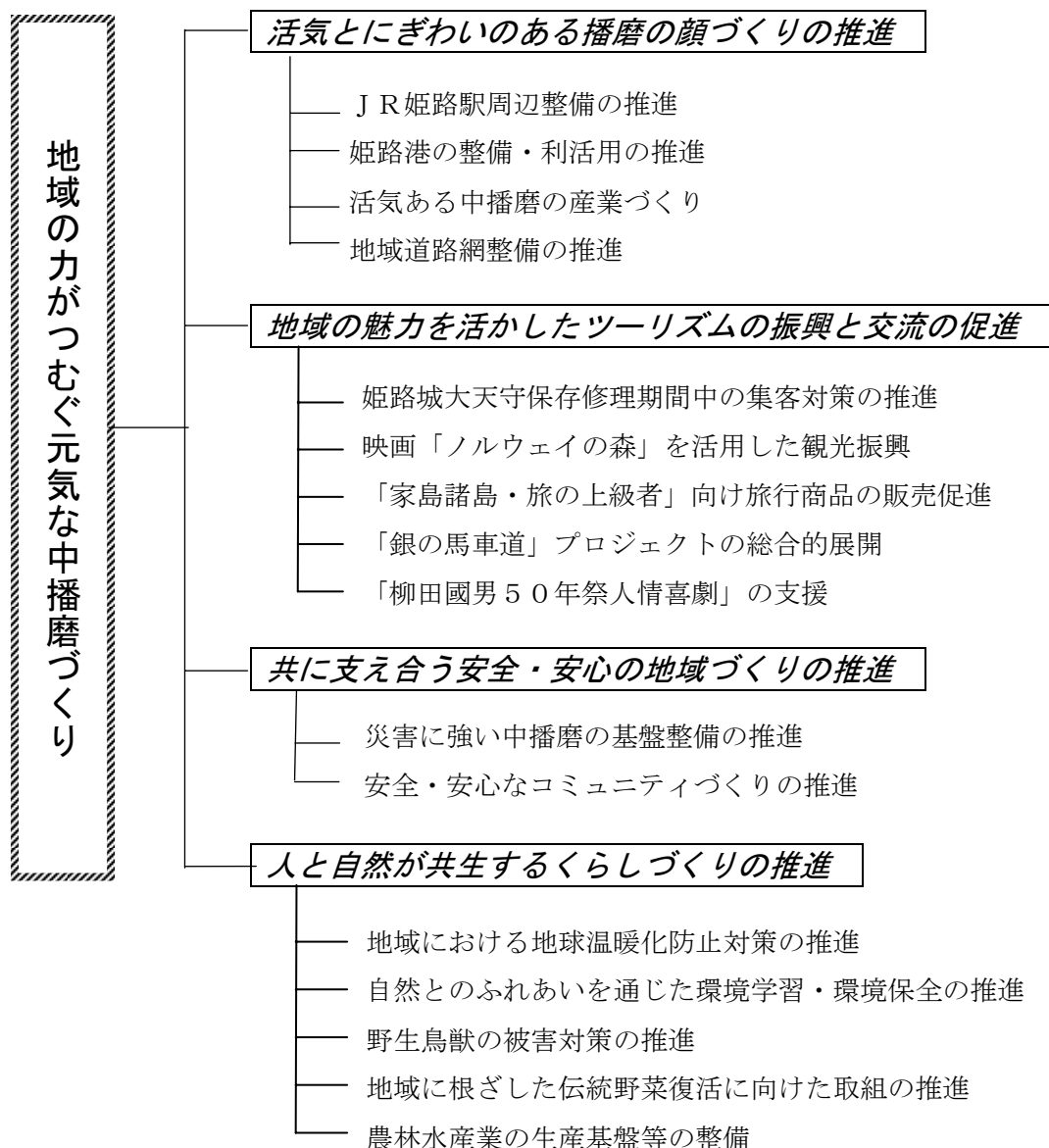
I 地域経営の基本方針

「地域の力がつむぐ“元気”な中播磨づくり」を基本コンセプトに、直面する地域課題に対し、事業の「選択と集中」を図りつつ、県民、市町、団体、企業等の参画と協働のもとで、地域政策の総合的な展開を図る。

II 平成23年度の重点方向(取組)

23年度は、① 活気とにぎわいのある播磨の顔づくりの推進、② 地域の魅力を活かしたツーリズムの振興と交流の促進、③ 共に支え合う安全・安心の地域づくりの推進、④ 人と自然が共生するくらしづくりの推進に重点をおいて、各施策に積極的に取り組んでいく。

III 平成23年度主要施策体系



IV 主な施策（事業）の概要

活気とにぎわいのある播磨の顔づくりの推進

J R姫路駅付近の鉄道高架化による事業効果を早期に発現させるため、駅周辺のまちづくりの基盤となる南北道路の整備推進をはじめ、姫路駅にふさわしいエントランスゾーンの早期整備を姫路市やJ R等と調整・連携して推進する。

また、「姫路港開港50周年記念事業」の成果や「姫路港整備・利用計画」に基づき、姫路港の整備・利活用の推進や「姫路港ふれあいフェスティバル」を開催するとともに、県内外企業の展示商談会の開催など活気ある産業づくりを進めるほか、道路網等、基盤整備の着実な進捗を図る。

◆「姫路港ふれあいフェスティバル」の開催

港・海の魅力を発信し、県民の興味・関心を高めるため、県民・市民参加型のイベントを開催

◆ビジネスマッチング商談会2011の開催

ポスト「ビジネスアリーナ2010in兵庫」として、新たな事業の拡大や販路開拓、新技術開発を目的に、県内外企業の展示商談会を関係機関とともに開催 等

地域の魅力を活かしたツーリズムの振興と交流の促進

姫路城大天守保存修理期間中の観光客の大幅な減少に対処し、B-1グランプリの開催など集客対策を推進するとともに、「鉱石の道」とも連携した「銀の馬車道」プロジェクトの総合的展開を図るなど、中播磨地域の地域資源を広く県内外に発信し、ツーリズムの振興と交流の促進を図る。

◆「B-1グランプリ in 姫路」の開催

B級ご当地グルメで姫路から日本を元気にすることをコンセプトに、地域のグルメ、中播磨・兵庫の観光を全国に発信する「B-1グランプリ in 姫路」を姫路市、姫路食文化協会等と連携し開催

◆「銀の馬車道」プロジェクトの総合的展開

人情喜劇「銀の馬車道」公演の支援、地域ウォークや交流イベントの実施、バスツアーや関連商品開発の支援等、多彩なプロジェクトを総合的に展開 等

共に支え合う安全・安心の地域づくりの推進

県民生活の安定を図るため、近年多発する集中豪雨災害も踏まえた災害に強い中播磨の基盤整備を推進するほか、地域で支え合うコミュニティづくりを推進するなど、安全・安心の地域づくり・まちづくりを進める。

◆災害に強い中播磨の基盤整備の推進

河川改修事業を推進するとともに、土砂・流木の流出を防止するため、治山事業、砂防・急傾斜地崩壊対策事業や「災害に強い森づくり」を一層推進

◆中播磨地域活動交流メッセの開催

地域の魅力発信、元気なコミュニティづくりに取り組む地域団体の活動発表・情報交換を通じて、地域づくり活動の活性化を支援 等

人と自然が共生するくらしづくりの推進

人と自然が共生するライフスタイルをめざし、廃食用油のリサイクルなど地域における地球温暖化防止対策や自然を活用した環境学習等に取り組むとともに、シカをはじめとする鳥獣被害対策や農林水産業の生産基盤の整備を推進する。

◆地域における地球温暖化防止対策の推進

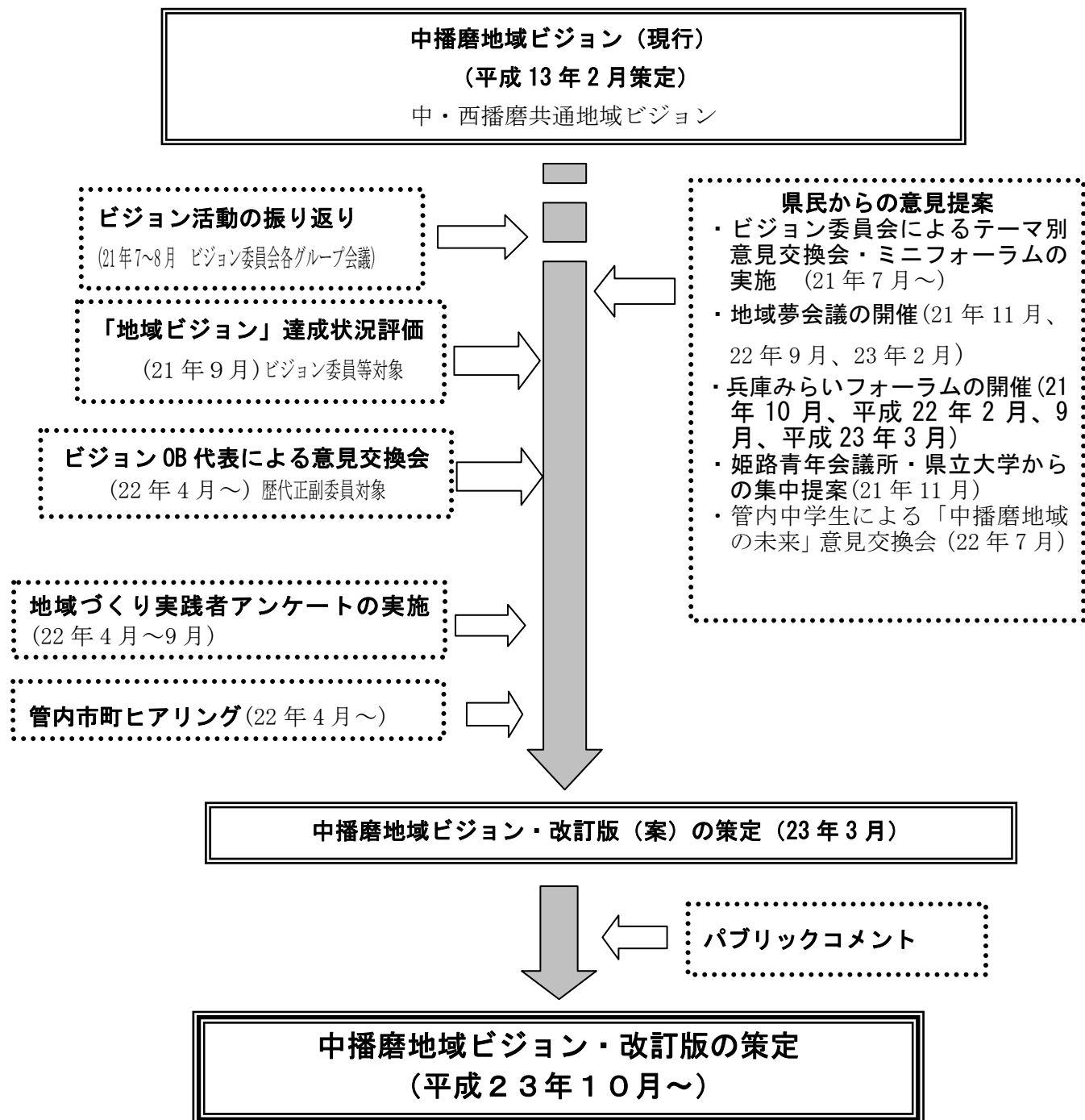
地球温暖化防止と資源の有効活用に向けて、廃食用油リサイクル事業を推進するほか、自然とのふれあいを通じた環境学習・環境保全を推進

◆野生鳥獣被害対策の推進

農林業被害の深刻な状況を軽減するため、捕獲の拡大と被害防除のための防護柵設置、野生動物を寄せ付けない集落環境づくり等総合的な被害対策の推進 等

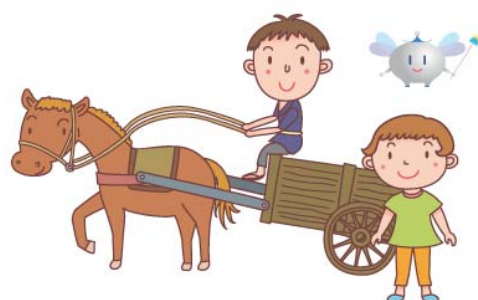
(資料：6) 中播磨地域ビジョン点検・見直しの経緯

中播磨地域ビジョン委員会では、点検・見直しの基本方針に沿って、中播磨県民局と連携しながら、下記のとおり多くの県民のみなさんの意見をお聞きしながら、ビジョンの点検・見直しを進めてきました。



(資料：7) 中播磨地域ビジョン検討委員会委員一覧

- 委員長 : 赤鹿 保生 (中播磨地域ビジョン委員会第5期委員長)
- 副委員長 : 北島 正紀 (中播磨地域ビジョン委員会第5期副委員長)
- : 福田 佳子 (中播磨地域ビジョン委員会第5期副委員長)
- 委員 : 浦田 麗津子 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- : 馬部 一清 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- : 中杉 哲也 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- : 原 正幸 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- : 來住 薫 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- : 吉村 耕治 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- : 西奥 啓二 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- : 木多見 哲夫 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- : 中島 大一郎 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- : 松尾 裕子 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- : 坂上 功治 (中播磨地域ビジョン委員会委員)
- オブザーバー : 田原 直樹 (中播磨地域ビジョン委員会 専門委員)
- : 宇高 雄志 (中播磨地域ビジョン委員会 専門委員)



中播磨地域ビジョン

中播磨地域ビジョン委員会

(事務局：兵庫県中播磨県民局)

【事務局】兵庫県中播磨県民局県民室ビジョン課
〒670-0947 姫路市北条1-98
TEL:(079)281-9053 FAX:(079)281-3015